橋高で

探究！研究！追究！

新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）

2024 年度（令和６年度）報告書

和歌山県立橋本高等学校

はじめに

本校は、明治４４年に橋本町立実科高等女学校として開校し、戦後の学制改革で現在の和歌山県立橋本高等学校となり、開校以来百年を越える歴史を刻んでいる学校です。また、平成１８年に同校地内に併設型中学校として古佐田丘中学校を設置している併設型中高一貫校でもあります。

「自治と自由」を校訓とし、教育目標として「個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求する創造性豊かな人間の育成」を目指しています。また、ユネスコスクールとして国際理解教育にも積極的に取り組んでいます。

これからの新しい時代は、先行きが不透明で、将来の予測が困難な時代と言われています。その新時代を幸せに過ごしていくために必要な資質・能力を育成するために、本校では「総合的な探究の時間」において、地域の課題や国際的な課題を発見し、解決するための道筋を探究する学習活動により、社会に対する認識を深め、自己の生き方を選択する能力や態度の育成に一定の成果を上げてきました。

その教育活動をさらに充実していくため、令和４年度に文部科学省より「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」の指定を受け、３年間研究を行ってまいりました。教科横断型の探究的な学びのカリキュラム構築、普通科の学際領域型新学科への改編に向けた研究を進め、令和７年度入学生より「普通科」を「探究科」に学科を改編いたします。本報告書は、そうした経緯を含め、最終年度である令和６年度の取組とその成果や課題を中心にまとめたものです

今年度は、１年生に新しい学校設定科目「世紀の空」を設置し、「創世の翼（総合的な探究の時間）」および「各教科」それぞれの学習活動をリンクさせ、教科横断的な深い学びとなるよう全校体制で教育活動を展開しています。この学びにより、新たな未来を創造する人材として活躍するための課題対応能力、自己理解・自己管理能力、人間関係形成・社会形成能力の育成を目指しています。

高校３年生のアンケート結果より、９割以上の生徒が探究的な学びを肯定的に捉え、この取組により「課題設定・解決力」「情報収集分析力」「協働性」「コミュニケーション能力」などの能力を身に付け、「探究活動が学習意欲の向上」につながっていると実感しております。研究指定終了後も、これらの教科横断的及び探究的な新しい学びが生徒の資質・能力の成長にどのように寄与し、生徒たちがどう変容していくかについても検証し、常に最適な学びを構築していきたいと考えています。

本報告書をご覧いただき、普通科改革の推進に関わる関係者の皆様に具体的な取組を進めるうえでの御参考になればと願うとともに、本事業実施にあたって多大なる御指導と御協力をいただきました文部科学省、県教育委員会、運営指導委員、コンソーシアム機関及び関係者の皆様に感謝申し上げます。

令和７年３月

和歌山県立橋本高等学校
校　長　田　中　克　介

目次

１．事業の実績 ･･････････････････････････････････････ 1

２．事業内容 ･･････････････････････････････････････ 2

３．校内運営体制 ･･････････････････････････････････ 3

４．コンソーシアムの体制 ･･････････････････････････ 4

５．コーディネーターの配置および活動内容 ･･････････ 4

６．管理機関による事業の実施体制や管理方法 ･･････････ 5

７．１学年探究内容 ･･････････････････････････････ 6

８．２学年探究内容 ･･････････････････････････････ 14

９．３学年探究内容 ･･････････････････････････････ 23

10. 発表会内容 ･･････････････････････････････････ 26

11. 高野山世界遺産研修 ･･････････････････････････ 48

12. ＳＤＧｓについて（企業研修・大学出前講座） ････････ 51

13. 他校・海外との交流 ･･････････････････････････ 53

14. その他 ･･････････････････････････････････････ 56

１．事業の実績

【事業の実施日程】

実施項目	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
地域に関する課題研究	3回 講演	4回	2回 講演	2回 市役所講義 講演	1回	5回 中間発表	3回	5回	2回	4回 クラス発表	4回 校内発表 講演	2回 アンケート
市長プレゼンテーション												1回
観光に関する教科横断型授業		1回 歴史総合	2回 理科 保健体育									
世界遺産に関する課題研究							1回 講演 事前学習	1回 現地学習				
世界遺産に関する教科横断型授業							2回 歴史総合 理科		1回 論理表現Ⅰ	1回 論理表現Ⅰ		
海外からの学生との対面交流						1回 大阪観光大学	1回 フィンランド			1回 和歌山大学		
SDGsに関する課題研究	3回 講演	4回	2回 講演	2回 企業訪問	1回 大学講座	5回 中間発表	3回	5回	2回	3回 クラス発表	3回 校内発表	1回 アンケート
小学生交流				1回				1回	1回			
北海道釧路湖陵高等学校との討議											1回	
海外高校とのオンライン討議					1回 フィンランド		2回 マレーシア 中国	2回 フィンランド オーストラリア	1回 台湾		1回 フィンランド	
運営指導委員会			1回					1回			1回	

【事業の実績の説明】

カリキュラムの検討内容

本校では、将来の予測が困難で複雑な新時代において、多角的視点からの考察力を礎とし、新たな未来を創造するグローバル人材の育成を目指している。そのため、教科横断型の探究的な学びを教育活動の中心においた教育課程の研究に取り組み、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力を育成する教育活動を展開している。令和４年度より総合的な探究の時間において、問題発見能力、問題解決能力、他者とのコミュニケーションの基本的なスキルを身につけるための活動を実施し、令和５年度においては、国内・海外の高校生、国内外で活躍する社会人などの他者の価値観に触れながら研究を深め、総合的な探究の時間との相関的な活動として、世界遺産学習、大学や企業等の外部機関と連携した学習、海外との交流を行った。令和６年度は、１年生で「世紀の空」を新たに１単位開設することで、さらに探究スキル、教科横断的視点の獲得、普遍的視野の拡大を目的とした内容を実践しながら、カリキュラムや教育方法等の研究開発に取り組んだ。（年次進行で、２年生３年生にも開設予定）

２．事業内容

【活動実績】

活動時期	活動実績		
	1学年	２学年	３学年
４月	・プレゼンテーション入門講演	・プレゼンテーション講演	・探究活動報告書の作成
５月	・探究課題設定	・探究課題設定	
６月	・観光教科横断授業（地歴・理科・保体）		・小論文講演
７月	・橋本市役所へのインタビュー ・データサイエンス講演会 ・小学校との交流（橋本小学校夏祭り）	・企業訪問 ・小学校との交流（橋本小学校夏祭り）	・後輩へのアドバイス
８月	・人権教育講演	・人権教育講演 ・ＳＤＧｓ大学出前講座	・面接指導
９月	・総合的な探究の時間中間発表会 ・海外留学生との対面交流（大阪観光大学） ・世界遺産（高野山）講演	・総合的な探究の時間中間発表会	・卒業レポート作成
10月	・海外交流（フィンランド来校） ・世界遺産教科横断授業（地歴・理科）	・海外交流（フィンランド来校） ・海外高校生オンライン交流 （中国・マレーシア）	・海外交流 （フィンランド来校）
11月	・世界遺産（高野山）実地研修	・海外高校生オンライン交流（フィンランド）	
12月	・世界遺産教科横断授業（英語）	・小学校との交流（清水小学校授業実施） ・小学校との交流（橋本小学校授業実施）	・卒業レポート提出 ・卒業レポート相互評価
１月	・総合的な探究の時間クラス発表会 ・世界遺産教科横断授業（英語） ・海外留学生との対面交流（和歌山大学）	・総合的な探究の時間クラス発表会 ・ＳＤＧｓ探究ＡＷＡＲＤＳ応募	
２月	・総合的な探究の時間校内全体発表会 ・ＳＤＧｓ講演	・総合的な探究の時間校内全体発表会	
３月	・国内高校生オンライン交流 （北海道釧路湖陵高校） ・橋本市役所への提言 （市長プレゼンテーション）		

【新学科の設置及び設置に向けた検討状況・関係者への説明の実施状況】

令和７年度から新学科「探究科」を設置するにあたり、８月に近隣の小中学校および地域住民に向けて「新学科説明会」を開催した。内容としては、「探究科」のカリキュラムおよびその取組についての説明、現在までの成果発表、新学科設置における質疑応答を行った。また、中学３年生及びその保護者に対する「学校説明会」を11月に、学校ホームページなどで周知した上で、開催し、新学科についての説明を行った。

【成果普及のための取組】

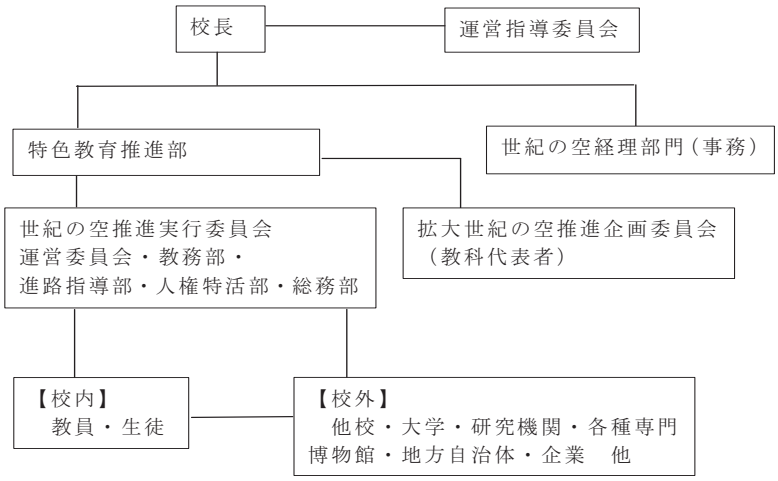
各活動において、学校ホームページで生徒、保護者、学校外部へ、活動内容を写真とともに報告するとともに、「探究科」周知のための学校PR動画（生徒実行委員会制作）を作成した。また、県内での授業交流会にも参加し、各校の探究活動について討議した。校内発表会（生徒成果発表会）では、本校保護者、探究活動に助力いただいた地域住民、企業、教育機関、および地域共育コミュニティ団体、本事業指定校、コンソーシアム等に案内し、生徒の活動について周知を図った。

【国の指定終了後の取組継続のための仕組みづくりに関する取組】

令和７年度のコーディネーターの設置は継続する予定であるが、令和８年度以降は、予算上、設置の継続は困難になることが予想される。そのため、今後、コーディネーターが担当者や関係者と協議している内容や方法、外部との連絡調整などについて、教職員が業務を引き継ぐことに注力するとともに、内容の精選についても検討を進める。

【課題】
・他の学校行事との重複を考慮し、講演･実地研修の時期･内容を見直すとともに、事前事後の学習時間を確保することにより､さらに内容の充実をはかる。
・高等教育機関、企業などの外部機関との連携において、生徒の金銭的負担を最小限にする形を模索する。
・学校設定科目「世紀の空」と各教科を相互に関連付け、生徒にとって横断的視点が得られるようなカリキュラム・マネジメントを研究する。
・ICTの効果的な利用とともに、生徒のデータ活用能力を強化する。
・留学生や国内外の高校生との意見交流、討議をさらに促進する。
・「世紀の空」と「総合的な探究の時間」の効果的な連携と運営方法を構築する。

３．校内運営体制



・運営指導委員会
　大学教員、研究者、関係機関、教育委員会の指導主事等で構成し、専門的な見地から事業全体について指導や助言、評価をいただいた。
（構成員）　和歌山教育委員会　学校教育局県立学校教育課
　　橋本市教育委員会　生涯学習課・学校教育課
　　橋本市役所　総合政策部政策企画課
　　橋本市国際親善協会・公益財団法人和歌山県国際交流協会
　　和歌山大学教育学部
・特色教育推進部
　令和５年度より新たな分掌として位置づけられ、令和６年度は３年１名、２年２名、１年３名と、これまでの研究成果に応じた人員配置を行った。研究開発の進捗状況を確認し、職員会議で報告し、運営指導委員会に対して進捗状況、計画、方法について評価を受けた。また、コーディネーターとともに、学外との協働による事業全般の企画、立案、実施と各教科と連絡調整を行い、研究開発において生徒を指導する指導教員を支援した。
・世紀の空経理部門
　事業全般の経理を担当した。

・世紀の空推進実行委員会
　特色教育推進部に他の各分掌代表を加え、円滑な運営のため、各分掌が行う活動との調整、また、事業全般の検討と職員間の連絡調整をおこなった。
・拡大世紀の空推進企画委員会
　各教科の教員を配置し、各科目の視点からの研究の進め方を考察するとともに、科目で行っている内容と関連した取組を企画し、教育課程全般について研究した。

４．コンソーシアムの体制

所属	令和６年度実績	今後の予定
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター	海外との交流・発信における相手先の紹介	海外との交流・発信における相手先の更なる拡大を依頼
和歌山大学	校内発表会での講評・助言	探究活動に関わる生徒への講演および校内発表会での講評を依頼
ＪＩＣＡ	クラス中間発表・代表班選考・校内全体発表での講評と助言	今後も引き続き、講評と助言を依頼
認定ＮＰＯ法人日越関西友好協会	海外との交流・発信における指導、助言を計画したが、未実施	海外との交流・発信の際、指導・助言を依頼
橋本市役所	生徒への助言、および探究活動への協力	今後も引き続き、助言と活動協力を依頼
大阪観光大学	留学生との意見交流を実施（１学年）	今後も引き続き、留学生との意見交流の実施を依頼
株式会社JTB	探究活動プログラム、コンテストの紹介	探究学習プログラムおよびコンテスト参加への助言を依頼
株式会社スマイリーアース	企業におけるＳＤＧｓ活動の実践についての実地研修を実施	今後も引き続き、実地研修の実施および生徒への助言を依頼

５．コーディネーターの配置および活動内容

令和６年度において、コーディネーターには、本事業に関わる様々な業務を委託しており、年間通して５時間が１回、６時間が２回の週３回の勤務である。コーディネーターは、令和５年度に引き続き、総合的な探究の時間の内容や本事業の経過や内容、事前事後の指導計画や生徒感想文等、様々なことを把握した上で、担当者や関係者と検討を行った。今年度については、本事業終了後も継続した活動が行えるよう、生徒の金銭的負担に対する配慮を行いながら、事業の改定を進めることができた。

令和５年度に改定した高校１年生の「世界遺産高野山フィールドワーク」における各施設の無料拝観は、令和６年度も継続することが可能となり、実地研修全体の金銭面での負担軽減に繋がった。また、高校２年生の「ＳＤＧｓ大学研修」は、令和５年度は大学での実地研修としたが、令和６年度は「ＳＤＧｓ大学出前講座」として、本校に大学から講師を招聘し、本校を会場として実施した。その際、高大連携システムを使用することにより、謝礼や交通費が発生しない形で実施することができた。高校１年生の「世

界遺産高野山フィールドワーク」や高校２年生の「株式会社スマイリーアースへの企業訪問」「ＳＤＧｓ大学出前講座」実施後の生徒の意識や考え方の変化を踏まえると、これらの活動については、今後も生徒にとって有益であると考えられるため、本事業指定が終了する令和７年度以降の実施に向けて、さらに熟議を継続する必要がある。

また、令和６年度もこれまでの取組を踏まえながら、他府県・海外とのオンライン交流、国内の大学に在籍する留学生との対面交流を計画し、語学力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力・ディスカッション能力等の向上を図った。その中でも、海外とのオンライン交流に関しては、交流した海外の高校生が令和６年度は実際に本校に来校し、対面での交流を行うことができた。今後も継続した交流を予定している。

また、これまでのＳＤＧｓ研究発表会や地域の課題発見・研究に関する橋本市長に対してのプレゼンテーションなどについても、取組と成果を地域や多方面に対して広報するとともに、今後は全員が全校に発表できるよう、ポスターセッションでの活動報告も計画している。

６．管理機関による事業の実施体制や管理方法への支援

管理機関である和歌山県教育委員会より、普通科改革を学校が主体性を持って進められるよう指導、支援いただいている。

主担当：和歌山県教育委員会県立学校教育課教育改革推進班指導主事

令和６年度　指導、助言等（抜粋）

・運営指導委員会（年３回）
　運営指導委員として関係機関とも協議し、指導、助言をいただいた。
・教職員研修関係
　普通科改革コーディネーター研修、普通科改革教員研修等の取組状況を共有
・学校指導訪問　（年２回）
　学校設定科目「世紀の空」授業見学、教職員への指導・助言
・管理職ヒアリング
　学校再編整備、新学科設立学科改編に関係する協議
・探究学習生徒発表会
　生徒の取組状況見学、取組についての指導・助言、
　普通科改革、学校の魅力化に向けた今後の展望について協議
・予算、人員配置への支援
　予算配当、活用への助言
　普通科改革コーディネーターの会計年度任用職員採用
・県内他校との情報共有等の支援
　県内普通科改革指定校（串本古座高等学校、新宮高等学校）との情報共有の支援
　県内高校探究学習実践内容の交流の支援

７．１学年探究内容

【活動計画】

月	日	曜日	1年
4	16	火	①1年間の学習内容説明（学年集会にて実施）
	26	金	②講演（課題設定に向けて。学年主任より）
	30	金	③講演（プレゼンテーション講演。外部講師より）
5	10	金	④橋本地域の魅力発見
	24	金	⑤根拠となる情報を探す
	31	金	⑥テーマを決め、「問い」を立てる
6	7	金	⑦テーマをより具体的に絞る
	21	金	⑧橋本市役所やJAへの質問内容を考える
	25	火	⑨インタビュー講演（外部講師より）
7	5	金	⑩橋本市役所やJAにインタビュー（外部講師18名より）
	9	火	⑪インタビュー会を振り返る
	16	火	⑫講演（データサイエンス講演。外部講師より）
	18	木	⑬3年生からアドバイスをいただく
			夏休み宿題（1学期の振り返りと、関連する論文の検索）
8	30	金	⑭中間発表準備１
9	5	木	⑮中間発表準備２
	6	金	⑯中間発表準備３
	10	火	⑰中間発表準備４
	13	金	⑱中間発表会（外部講師5名来校）
	19	木	⑲中間発表会振り返り
	27	金	⑳発表準備１（活動届とTeamsについて説明）
10	11	金	㉑発表準備２（校外活動について説明）
	18	金	㉒発表準備３（アンケート作成について説明）
	25	金	㉓発表準備４
11	1	金	㉔発表準備５
	8	金	㉕発表準備６
	15	金	㉖発表準備７
	22	金	㉗発表準備８
	29	金	㉘発表準備９
12	13	金	㉙発表準備１０（クラス発表会のルールについて説明）
	17	火	㉚発表準備１１
	20	金	㉛発表準備１２
			冬休み宿題（プレゼンテーションの準備）
1	10	金	㉜発表準備１３
	17	金	㉝クラス内発表会（外部講師5名来校）
	31	金	㉞発表会の振り返りとオンライン交流の準備
2	4	火	㉟釧路湖陵高校とのオンライン交流
	13	木	㊱校内発表会（校外で実施）
	14	金	㊲1年間の活動内容のまとめとお礼状の作成
3	19	水	㊳市長プレゼンテーション

【主な活動内容】

１学年の創世の翼（総合的な探究の時間）では、橋本市やその周辺地域の活性化に向けて自分たちが考えた取組を提言するという課題学習に取り組んだ。講演や市役所、JA へのインタビューを通して、考え方や取組についての理解を深め、中間発表では外部講評者へのプレゼンテーションを通して課題に対する理解を深化させる機会となった。その後、取材やアンケートを目的とした地域訪問を行い、自分たちができる課題解決に向けて考察を深めた。また、校内全体発表会で市役所職員によって、選ばれた班は市長プレゼンテーションで提言した。

① プレゼンテーション講演

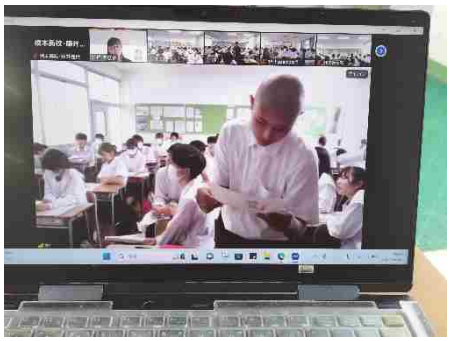
日時：４月３０日（火）３～４限

場所：本校（武道場）

目的：プレゼンテーションの基本を体系的に学び、聴き手の共感を得る方法を理解することで、探究活動に役立てる。

内容：講演「プレゼンテーション入門」

講師：京都芸術大学　吉田大作氏



② インタビュー講演

日時：６月２５日（火）７限　（オンラインで実施）

場所：本校（各ＨＲ教室）

目的：今後、さまざまな活動において、他者から自分にとって有益な情報を得ることは必要不可欠である。そのためのインタビューについて学び、探究活動における情報収集の方法とその必要性を伝える。

内容：情報収集のポイントを確認し、インタビューの心構えについて学んだのちに、効果的に情報を得られるためのインタビューの仕方を考える。

講師：朝日新聞社　遊佐美恵子氏

③ インタビュー会

日時：７月５日（金）７限

場所：本校（各ＨＲ教室、視聴覚室、自主学習室、会議室）

目的：橋本市役所やＪＡへのインタビューを通して、課題設定についての理解を深め、ヒントやアドバイスをもらい、探究活動に繋げる。

内容：事前に各班において、疑問に感じたことや自分たちが取り組みたいと考えていることをまとめ、市役所職員やＪＡ職員に対して質問を行う。

④ データサイエンス講演

日時：７月１６日（火）ＡＢ６限，ＣＤＥ７限）
場所：本校（視聴覚室）
目的：膨大なデータを収集・解析することで新しい価値の導き方や課題を発見し、解決する方法等を学ぶことを通して、探究活動に主体的､創造的に取り組む態度を育てる。
内容：「データサイエンス」というテーマの講演を通して、データサイエンスの基本的なスキルである統計学・情報学等の知識の理解を深め、総合的な探究の時間の学習活動等に繋げる。
講師：和歌山大学　吉野孝氏

⑤ 夏季休業中の活動

目的：総合的な探究の時間の課題内容について、さらに深める。
内容：１学期の探究活動について振り返りを行う。また、「グーグルスカラー」を利用し、自身が取り組んでいる課題に関連する論文を各自で探し、「発見したこと」や「参考になると思った点」についてまとめる。
※課題：１学期の活動において、課題設定までの時間を要するにも関わらず、調査はまだ不十分である。長期休業中に活動とともに、さらに調査を深めることも必要であるため、それぞれが探究課題における校外での調査や研究のために、各班が自由に時間設定し、行動できるよう促すことが有効である。

⑥ ＳＤＧｓ講演

日時：２月１７日（月）６限
場所：本校（体育館）
目的：探究活動において課題設定や課題解決にむけて複合的な視点で取り組む態度を培い、自分たちに何が出来るかを考える機会とし、次学年につなぐ。
内容：高校１年生「ＳＤＧｓ探究活動～自分たちにできること～」というテーマをとおして、探究活動についての理解を深める。
講師：奈良教育大学　中澤静男氏

⑦ 市長プレゼンテーション

日時：３月１９日（水）１６：００～１７：００
場所：橋本市社会福祉センター
目的：自分たちが橋本市の課題として取り組んだ活動について、市長にプレゼンテーションすることによって、今後の探究活動の深化につなげる。

1A1	空き家問題の解決

私たちは橋本市の空き家を減らすために、さまざまな活動に取り組んだ。まず橋本市の空き家の現状を知るために、情報収集を行った。その結果、空き家を減らすためには空き家へのアプローチが重要だと考えた。そこで、空き家をリノベーションをして営業をしている方たちの意見を知りたいと考え、インタビューをしてきた。そのインタビューの結果から、考えたことや知らせたいことをまとめ、ポスターにし、校内に掲示した。そして、この一連の流れと空き家に目を向けてほしいという考えから、プレゼンテーションにまとめ、みんなに空き家に関心を持ってもらうことができた。この活動を通して空き家が少なくなることで、景観がよくなり、住み続けやすい生活が送れると考える。

1A2	農家を救う

私たちは地元である橋本市の農業を盛り上げるため、若い世代の農家を増やすというテーマで活動した。現在、日本の農業従事者の総数は年々減少している。さらに20代、30代の若い世代も減っており、高齢化が深刻化している。私たちは、橋本市が抱えているこの問題を解決するため、若い世代の職業選択の際に農家を入れてもらうことが必要だと考えた。そのためには、若者に農家に興味を持ってもらい、農家収入が高くなれば良いと考えた。そこで農作物を消費するための例としてアレンジレシピを試してみた。アレンジレシピの材料には地元である橋本市で作られた柿を使用してレシピを作成した。また、私たちはこの活動を通して農作物を食べることが農家の助けになれると知った。

1A3	みかんや柿の食品ロスを減らそう

橋本市で多く生産されている柿や蜜柑を使って、地域の食品ロス量を減らすというテーマで活動をした。学校でアンケートを行い、蜜柑を捨てたことがある人は約40%だと分かった。その中で親戚からもらったという人は約65%だった。私たちは沢山貰うことでお金がかからないから勿体ないという意識が薄れ、捨てられやすくなっているのだと考えた。捨てたことのある食材をアンケートしたところ、柿という回答が多かったので、柿の保存方法と、みかんの大量消費方法を考えた。様々な保存方法を試したところ、暖かい部屋より常温の部屋で保存するのがよいと分かった。レシピはいろいろな食べ物と一緒に食べることが出来るみかんジャムを紹介した。

1A4	橋本市の人口減少に対する対策とは

近年、橋本市の人口減少が進行しており、特に若者の転出が目立っている。それにより、橋本市内の学校の合併・閉校や労働力の減少、電車の減便などの様々な問題が起こっている。そこで私たちは、何があれば橋本市に住み続けたいかについて、本校の生徒にアンケートを取った。その結果、娯楽施設やショッピングモール、飲食店などが求められていると分かった。そこで、柿・オムレツ・へら竿といった橋本市の魅力を生かした廃校カフェを考案した。橋本市にはいくつかの廃校があり、その廃校を使うことで、通っていた人たちが懐かしさを感じられ、行ってみたくなるだろうと考えたからだ。これにより、橋本市の魅力を広め、橋本市をより多くの人に知ってもらえることが期待できる。

1A5	紀の川をきれいに

近年河川におけるごみの増加問題による悪影響が懸念されている。河川から流れるゴミは劣化することによりマイクロプラスチックとなり、海の環境だけでなく、私たちの生活にも悪影響を与えていることが分かった。これを踏まえて、ごみのポイ捨てを防止するために大きく分けて2つのことに取り組んだ。1つ目はゴミ箱を置くことで、ごみが川に流れることを防止すること。2つ目は、ポスターを掲示することでポイ捨てに対する社会的意識の向上を図ることである。ゴミ箱設置はコスト面や、犯罪の恐れがある点から、実際に不可能なことが分かった。ポスターの掲示においては、長い文章ではなく一目で見てわかる絵や漫画を使ったポスターを作成した。

1A6	地震を身近に考えよう

地震を身近に考えようというテーマで、巨大地震が起きる前に何ができるのかということについて取り組んだ。地震や橋本市と地震の関係について、論文を読み、橋本市の地震に関する問題を調べた。防災授業に対する飽きや慣れが小学生に見られるという課題の解決について主として考えた。まず、実際に小学生に防災意識を変えるための授業を行った。他にも地域の防災力を高める啓発ポスターを貼った。この活動を通してわかったことは、小学生の防災授業に対する飽きや慣れはあまり感じられず、中高生にあるのかもしれないということだ。この問題を解決するために、中高生が教える側に回るというプログラムができると全体の防災意識が上がると考えた。

1A7	高野山を快適に訪れるために

私たちは高野山研修から高野山観光は体力的につらい部分があると感じ、また高野山を実際に観光した人の感想で「足が痛い」「疲れた」などの意見をインターネットで見て、もっと快適に観光してもらうことをテーマとして活動した。私たちは、座る場所が書かれたマップのようなものがあればよいのではと考えた。そして見やすいマップをつくるためにベンチの場所をピクトグラムにし、カフェやお土産屋の場所もあわせて表記し、周囲の場所を分かるようにして、使い勝手の良いものにした。また、ベンチの写真をマップに貼ることで探すときに分かりやすいように工夫を凝らした。作ったマップを貼ることで、高野山に観光にしに来た人が快適にすごせたと感じ、それにより観光する人が増えるのではないかと考えた。

1A8	橋本市のブドウを広めよう

橋本市の特産品であるブドウを多くの人に広めるために、インスタグラムを活用して宣伝することをテーマに活動した。高校生らしい取り組みを考えたとき、インスタグラムに着目した。橋本市のブドウの人気度は先輩が過去に作ったパワーポイントから参照した。ブドウの栄養素や育て方、橋本市の特産品の品目などの情報は全てインターネットで調べた。この活動から、ブドウの効果を知らない人が多いと分かった。インスタグラムを活用することは多くの人の目につくという利点があることから、宣伝に適している。反対にフォロワーを増やすことができないと見てもらう人が少なくなることから、フォロワーの増やし方を考える必要がある。

1B1	アウトドアによる地域活性化

私たちは、「アウトドアによる地域活性化」というテーマで活動した。班での話し合いを経て、橋本市の持つ豊富な自然を活用した地域活性化に取り組むことにした。校内アンケート調査などから本校の生徒は、アウトドア活動への関心度が高いにもかかわらず、橋本市内のアウトドア施設の認知度は低いことが分かった。このことから私たちは、橋本市内のアウトドア施設の認知度を向上させることが橋本市の地域活性化に繋がると考え、特に関心度が高かったキャンプに着目し、橋本市内のキャンプ場をまとめたパンフレットを作成した。この活動を通して、橋本市の持つ魅力を再発見し、その魅力を効果的に発信する方法について考えることができた。

1B2	橋本市の企業誘致

私たちの班は、橋本市の経済を盛り上げることを目的に企業誘致についてインタビュー活動などをおこなった。具体的にはルートイン橋本に行き、実際に橋本市に建てて感じたメリットや橋本市の経済の特徴などを聞いた。その結果、高野山に観光に来る人だけでなく、企業誘致などできた工場などの従業員の宿泊などに利用されることが多いことが判明した。また、今もなお橋本市は企業誘致に力を入れていて、それによって経済の活性化や人口増加につなげていることがわかった。このインタビュー活動を通して私たちは町の経済に興味を持ってもらうためにSNSの発信やポスター制作を行おうと考えた。

1B3	へらざおの興味・関心

初めは、橋本市の伝統工芸品「へらざお」の知名度を上げるという目標を設定していたが、実際に橋本高校の生徒や先生に対してアンケートを取ったところ、自分達が思っているよりもへらざおを知っている人が多かったことが読み取れた。そのためテーマを更に踏み込んで、へらざおの興味・関心につなげるテーマにした。初めにインターネットを使った下調べを行い、へらざおについての基礎知識をつけた。そして実際にへらぶな釣り体験を行った。その体験やへらざお職人へのインタビューを通してインターネットでは分からなかったへらざおの使い方や魅力を知ることができた。衰退傾向にあったへらざおの魅力を伝えるために自分達にできることや地域的な活動を行うことができた。

1B4	人口減少について

教育・福祉というテーマに着目した際に、福祉施設が減少していることから人口が年々減少していることが分かり、人口を増やすためには、どのようなことをすればよいかを考えた。そこで私たちは、橋本高校の生徒たちに、アンケートを行った。アンケート内容は、橋本市は住みやすい町かどうか、また、住みやすい町、住みにくい町と答えた理由、橋本市をより良い町にする方法である。その結果、住みやすいという意見が多く、その理由としては、他府県への移動のしやすさ、自然の豊かさに魅力を感じていると答える人が多くいた。また逆に住みにくいと答えた理由では、電車の本数が少ない、周辺店舗が充実していないと答える人がいた。

1B5	森林と私たち

私たちは、まず森林について知ってもらうことと、森林のために何かしようとする意識を持ってもらうために森林についてのアンケートをいくつか校内で行った。それをもとに、私たちでもできることを皆に伝えた。このアンケートを実施したことによって、私たち高校生が森林に対して関心がほとんど無いということが分かった。さらに、私たちの住んでいる和歌山県が行っている「企業の森」という森林対策を知る人のほとんどが、ポスターを見て知ったということが分かった。このことから、森林に対しての関心を少しでも持ってもらうためには、ポスターを制作し、よく人の目につくような場所に掲示することが一番効果的だということが分かった。

1B6	橋本市の地球温暖化の対策と自分たちが簡単にできる対策について

私たちは、いま世界中で問題になっている地球温暖化問題の規模を少しでも小さくするために、橋本市の地球温暖化対策と自分たちができる対策について考えた。最初に橋本市が提示している対策と最終の目標について調べた。その対策内容を詳しく調べ、橋本市の現状について調べた。そして、校内100人に地球温暖化の対策を家で行っているかをアンケートを取り、その結果、対策を行っていない人が多いことを知った。そしてなぜ行っていないかについて考えた結果を基に、多くの人ができる対策について考えた。最後に調べた結果から、私たちが考える一番大切だと思うことについて考えた。

1B7	橋本市の地震対策について

私たちの記憶に新しい東日本大震災の教訓を生かすために、近年心配されている南海トラフ巨大地震の被害を最小限に抑えるために何か対策できないかと思い、橋本市の地震対策を調べることにした。具体的には、自分たちの身近な避難場所についての知識や、避難ルート、地震が起きた際の対策について、なにかしていることはあるかについての校内アンケートを実施した。その結果をもとに自分たちに足りていないものを理解し、ピンポイントで対策を考えることで、より効果的に実施できると思ったためである。発表では、円グラフを多用し、できるだけ簡潔にパワーポイントを作成したことで、わかりやすく発表できた。

1B8	観光の発展による地域の過疎化防止

橋本市の過疎化を防止するために、まず現状の確認が必要であったため、和歌山県の全人口数と、橋本市の人口推移を調べた。次にターゲットを高野山を訪れる観光客にしぼり、橋本市に来てもらうきっかけを考えるため、京都府の向日市を参考にし、向日市についてさらに調べた。有名なもので町おこしをしたことが分かったので、橋本オムレツを起点とし、色々なタイプの橋本オムレツを考案し、その中の一つ、クレープ型の橋本オムレツを試作した。この活動から、人口が衰退している地域ではその地域の特産物を使い、町おこしをしていることが分かった。又、これを橋本市に当てはめることで、人口の過疎化防止、ひいては和歌山県全体の活性化に繋がると考えた。

1C1	橋本市の人口増加を図るため

私たちは、「橋本市の人口増加を図るために」というテーマで活動した。そのために、SNS（Instagram）を用いて、橋本市のよさそうな場所や風景に加え、大阪、奈良や世界遺産高野山へのアクセスの良さなどの橋本市の魅力を橋本市のことをよく知らない人などにも知ってもらえるような活動を続けた。その活動を通して、SNSで発信することは手軽に始められるが、たくさん閲覧され、橋本市の魅力について多くの人に認知されるという結果を出すことは、数多くの他のSNSの投稿に埋もれてしまい、難しいということを学んだ。また、県外の人、特に橋本市を利用しない人に魅力を伝える方法は少ないと感じた。

1C2	柿を求めて…

私たちは農業分野の中で、地域で生産された農産物に触れよう！というテーマで活動した。主な活動内容として、橋本市でよく生産されている「柿」を使ったおいしく食べられるスイーツを考案した。それは「柿クレープ」だ。あまり知られていない柿クレープを作ることによって、新しい柿の良さや魅力について知ることができた。そして、私たちは地産地消にも重点を置き、橋本市で生産された柿のみを使用した。地産地消はとても身近であり、誰でも達成できるものだと知った。

1C3	橋本市の魅力を広めよう

私たちは、橋本市を取り囲んでいる自然の魅力を広めるために活動した。橋本市の自然の魅力を知ってもらうためにはアウトドアで知ってもらうのが一番だと考え、最初に橋本市のアウトドアスポットを調べ、それらの場所をどれくらいの人が知っているかのアンケートを取った。その後、アンケート結果からポスターを作成し、それを橋本駅に掲示した。

1C4	橋本市の活性化

私たちは橋本市の活性化のため、イベントを企画した。橋本市のイベント数が活性化につながる鍵だと考え、廃校を使った企画を考えた。廃校を使う目的は、人口が減っている中、母校がなくなってしまうかもしれないからである。この企画の実現は難しいとわかった上でも、やはり橋本市にはイベントを行い、盛り上がるようなものが必要だと考え、この企画をするにあたってアンケートを実施した。しかし、このアンケートの趣旨が明確ではなかったために説得力が低かったと感じた。また、この企画を実際に実施するためにも市役所などへの行動が少なかった。目的がはっきりしていなくて、実現するためにも行動が必要だった。

1C5	橋本市の人口減少問題

私たちは橋本市の人口減少問題に注目し、人口減少を抑えるためにできることはないかというテーマで活動を行った。そこで橋本市の魅力を知ってもらえば市外へ出ていく人が減ると思い、地場産業に注目した。橋本高校生徒を対象にアンケートを行った結果、約80%の人が橋本市の地場産業を知らなかったため、若い世代に地場産業を広め橋本市の魅力を知ってもらおうと考え、Webサイトの作成やYoutubeへの動画投稿を行った。その結果、Youtubeでは総再生回数は3000回止まりだった。今回の活動から今回以上に地場産業を広めていくには、市や企業などの協力が必要だと考えた。

1C6	災害時に食糧に困らないためには

私たちは、災害時に食料に困らないためにはどうしたらよいのかについて探究した。そこで着目したのがローリングストックだ。まず初めにローリングストックについてアンケートを取った結果、認知度が低いことが分かった。そのため、ローリングストックを広めるためにポスターを作成した。二週間掲示した後にもう一度アンケートを取ったところ、以前よりも10%以上、ローリングストックを知っている人が増加した。さらに、スライドを見やすくすることにも取り組み、スライドが見やすいという良い評価を受けることができた。活動を通しての反省は、ポスターを掲示する時期が遅れたことと、そのほかの活動をすることができなかったことである。

1C7	橋本市の景観を守ろう

私たちは、橋本市の景観を守るために、ごみ問題に注目し、清掃活動を行うことにした。ごみ問題に注目した理由は、登下校中に道端にごみが落ちているのを見かけたからである。清掃活動を行う場所を計画するため、橋本高校生100人に「どこに多くごみが落ちているのを見かけますか」とアンケートを取った。橋本駅、道端、裏通りという回答をもとに清掃活動を行った。2時間行い、吸い殻28本、カン18本、ペットボトル3本、お菓子の袋などが集まった。それらを分別した際、パッケージが古いゴミが落ちていたので、誰も拾わなかった、長時間落ちていたことや、同じごみが同じ場所に落ちていたことから、同じ人が捨てたかもしれないということが分かった。ごみ問題に長い間、注目できたからこそ気づけたことが多くあった。

1C8	高齢者との接し方について

私たちは、「高齢者との関わり方について」というテーマで探究活動を行った。まず本校の生徒を中心にアンケートを取り、同じ世代の人がテーマについてどう思っているかを把握した。その中で特に多かった「認知症で関わり方がわからない」と「そもそも関わる機会がない」ということに着目し、市のホームページやインターネットでの情報をまとめ、発表した。私たちは「関わる機会がない」ということに重大性を強く感じ、老人ホームでの交流レクリエーションを提案し、そこから学びを深めようとした。しかし、計画の甘さから時間が足りず、実現は不可能だった。来年の探求活動には、この経験を活かし、念密に計画を立て、取り組んでいきたい。

1D1	橋本市のごみの量一割削減

橋本市のごみの量を現状の一割削減というテーマに取り組んだ。市役所の人に橋本市の現状を聞くと、減ってきている・ゴミ処理計画に取り組んでいると答えてくれた。私たちはごみが減った理由は3Rに取り組んだからであり、一割削減するためには、私たちが一日に出すペットボトルの量を減らせばよいと考えた。そのために、水筒を持つことと、スターバックスに行くときはタンブラーを持っていくことを推奨した。水筒を学校に持ってきている生徒の数を調べたところ、クラスの全員が持ってきていることが分かった。これにより、水筒を持ってくる以外に策がいると考えた。そこで考えたのがスターバックスにタンブラーを持っていくことであった。現在、大人気チェーンとして知られているスターバックスなので、多くの人がこれに賛同してくれた。

1D2	後継者問題の解決

私たちは、農業の後継者問題、人員不足の解決というテーマで活動した。まず、私達は、クラスの全員に将来の仕事として、農家を候補に入れているかというアンケートをとり、農家を候補に選ばない人に対して、理由を聞いた。その結果、体力問題、経済問題、土地や道具の問題、他にやりたいことがある、農業のやり方がそもそも分からないといった理由があった。そして、私たちはその理由に対して、農協の支援に着目し、実際に農協の方にインタビューをしてその内容をまとめた。将来農家として働いてもらう人を増やすために小・中学生が中心となるイベントを開催して農協の支援を知ってもらい私達がボランティアとして参加して人員不足を解消するという提案をした。

1D3	はたごんぼについて

私たちは、橋本市の特産品であるはたごんぼに着目し、知名度を上げるために活動した。インターネットで情報収集したが、不十分だったので、くにぎ広場を訪問し、魅力や歴史、育てるうえでのこだわり、レシピを聞いた。まず、はたごんぼを私たちが知るべきだと思い、はたごんぼコロッケを食べた。そしてくにぎ広場では、全国的にはたごんぼの知名度は上がっているけれど、橋本市の若者の認知度があまりないことを理解した。そして、私たちは、認知度を上げるためにレシピづくりをすることを決め、そのレシピを入れたパンフレットを橋本高校の生徒を対象に作ろうとした。けれど、はたごんぼのレシピづくりをすることはできず、パンフレットは作ったが、設置できなかった。

1D4	アニメによる町おこし

近年アニメ文化は全世界で急速に広まり、その影響は非常に大きく、アニメツーリズムという新たな産業が生まれるほどすさまじいものである。そこで私たちは、アニメの舞台となった地域に行ってもらって人を呼び込むなどアニメ文化を地域活性化に取り入れることをテーマにした活動に取り組んだ。まずは和歌山県の現状や和歌山県にあるアニメを調べた結果、和歌山県は観光客があまり多くないことや和歌山県が舞台のアニメは多く存在することがわかった。そこから、和歌山県に人が来ない理由として、和歌山県の魅力が認知されていないことが一因だと考えたため、私たちは和歌山県のアニメの聖地の場所を記載したポスターを制作した。

1D5	小学生の満足度の高い学童保育

私たちは現代社会の問題の一つである、小学生の学童保育の満足度の低下という問題にフォーカスし、橋本市の学童保育をより良くする事を目標に活動した。まずはインターネットで小学生から職員までの学童保育に対する具体的な意見や不満を調べ、全国各地で共通する課題を知り、私たちの目標を達成するための参考にした。次に橋本市の学童保育の現状を知るために、実際に橋本小学校に足を運び、職員の方々や小学生に学童保育に関する不満や意見を聞いた。また、小学生と外遊びや室内遊びをして、小学生は高校生と積極的に遊ぶという事を知るとともに、今の橋本市の学童保育には高校生の力が必要であるという事を知ることができた。そのため、私たちは学童保育に関して、高校生にできることを調べ提案した。

1D6	みんなに伝える橋本市の魅力

私たちは橋本市の魅力を市外の方に知ってもらうことを目標とした。どのような手段を用いるのがよいかを考え、ポスターを使用することで、ふとした時に市外の人の目に入るのではないかと、ポスターを作成することに決めた。より良いポスターを作成するため、橋本市役所に意見をいただいた。その結果、四季ごとに分け、情報を一枚に詰め込むことでより目立つという意見を得た。それをもとにポスターを作製したが、実際に掲載し、効果を調べることはできなかった。役場でのアンケートやポスター作成から、ポスターは、四季ごとに分けるなどして、橋本市の様々な情報を一枚に詰め込み、より目立つものを作ること、駅やお店などたくさんの人の目につく場所に掲載することで、より見てもらえるということの二つを提案した。

1D7	無駄のない避難所生活

私たちは以前の能登半島地震の大量の避難所ゴミに着目し、無駄のない避難所生活をおくるためにというテーマで活動してきた。 私たち高校生ができることを考え、カイロ、ペットボトル、段ボール、新聞紙を活用することにした。そして段ボールを活用した椅子、ペットボトルを使用したランタン、新聞紙スリッパを作ってみることで、実際の効果や使い方、強度などを試すことができた。 この情報を拡散するためにはどのような手段を用いるのが良いかを試行錯誤し、パンフレットを利用することで、電子機器が使えない避難所でも情報共有が簡単にできると気づいた。パンフレットには私たちが作ってみた廃材を活用した道具の作り方を載せた。 パンフレットを私たちのクラスの教室に掲示し、高校生の防災意識を高めた。

1D8	橋本市民の防災意識を高めよう

私たちは市民全員が適切な知識を持って災害に備えるにはどうしたらいいか考えた。そこで「橋本市民の防災意識を高めよう」というテーマで活動した。なるべく多くの人に手元に残してもらうために、パンフレットがよいと考え、作成に取り組んだ。そのために、まずはインターネットを利用し、情報収集を行った。次にパンフレットの作成をした。ここでの工夫点は、表紙を「警告色」と呼ばれる注意を惹く配色にしたことだ。内容は、防災警戒レベルや非常用品、避難所での行動など、避難時に必要な情報を掲載した。完成したパンフレットは班員の家族に見せて意見をもらった。結果「テーマはよかったが、いざというときの行動がイメージしにくい」という意見が出た。このことからパンフレットでは人々の意識を変えるのは難しいという結論に至った。

1E1	世界を柿色に染めよう

橋本市の柿を広めるため、やっちょん広場で消費者を対象にアンケートを実施し、柿の購入理由や消費行動に関する情報を収集した。また、地元農家にインタビューを行い、生産過程での課題や苦労、工夫について詳しく調査を行った。これらの調査結果を踏まえ、自分たちの視点から消費者が柿の栽培や収穫を体験できる「体験型農家」の案を考案。体験を通じて生産者と消費者の交流を深め、柿への理解と関心を高めることを目的とした。さらに、地域全体で柿の魅力を発信し、橋本市の柿文化を全国へ広めるための取り組みの一環として提案を具体化した。これに加え、地域の経済活性化を目指し、多様な世代に柿を楽しんでもらえる環境整備も計画に盛り込んだ。

1E2	捨てられてしまうプラスチックを減らそう

私たちは、橋本市で捨てられてしまうプラスチックを減らすことを目標に活動を行った。まず、プラスチックごみの分別を促すために、人通りの多い橋本駅とスーパーや若い世代にも広まって欲しいという思いで橋本高校にペットボトルの回収ボックスを設置することにした。また、その案についての相談や、橋本市のプラスチックごみ問題の現状をよりよく知るために橋本市役所を訪問した。そこで、資源ごみを勝手に処分・運搬・譲渡する行為が法律で禁止されていることを教えてもらった。そのアドバイスを基に、特別に資源ごみの処理や運搬が許可されている業者の協力のもと、橋本駅にペットボトルキャップの回収ボックスを設置し、エコキャップ運動を行った。

1E3	給食に地産地消をもっと取り入れよう

私たちの班は、「給食に地産地消をもっと取り入れよう」というテーマで活動した。まず、学校で地産地消の理解度を知るためにアンケートを実施し、給食センターが地産地消にどれだけ貢献しているかを把握するためにインタビューを行った。その結果、多くの人が給食に地産地消が取り入れられていると思っている一方で、実際にはあまりされていないことが判明した。このことから、私たちは給食にもっと地産地消を取り入れるためのメニューを考案した。具体的には、地元の野菜や果物を使用した炊き込みご飯などを提案した。しかし、時間が足りず、給食センターに提案することはできなかった。

1E4	もやし大作戦

私たちは、橋本市の農業従事者を増やすため、若者に農業に対する関心を持ってもらう「もやし大作戦」を行った。まず、橋本市の農業の現状を知るために、JAにインタビューを行い、その後、農業体験に行った。実際に体験したことで、農業の良さが分かり、高校生に農業体験を行ってもらうことで、農業への関心につながると考えた。そして、橋本高校の1、2年生各クラスに一つずつ自作のもやし育成キットを使用し、5日間もやしを育ててもらった。その後、班員で回収し、育成の状況を確認した。また、もやしを育てたことで、農業への意識が変わったかのアンケートを行った。その結果、「はい」と答えた人が7割、「いいえ」と答えた人が3割となった。このことより、もやしを育成してもらったことが、農業への関心につながったことが分かった。

1E5	伝統工芸品の知名度を上げる

私たちは、後継人不足の解消のために、伝統工芸品の知名度を上げることに焦点を置いて小学生に授業を実施した。授業前に行ったアンケートでは、伝統工芸品に対する認知が低いこと、伝統工芸品に触れる機会があってもそれが伝統工芸品であることを理解していない人がいることが分かった。授業では「伝統工芸品とは何か」ということを重点に置き、説明した。授業後の小学生は伝統工芸品に対して興味をもってくれ、もっと知りたいという声が多くあった。伝統工芸士の方にも話を伺った際、自分たちが行った授業などの伝統工芸品を広める機会を沢山作ることが必要だとおっしゃっていて、自分たちが行った授業は効果的なものになった。

1E6	生涯学習を知ってもらおう

私たちは、学歴重視な考え方やスマホ・ゲーム依存からなるストレス社会を改善するために生涯学習について調べた。その中で、市役所生涯学習課の方から、早い段階で生涯学習に触れることが大切だと聞いた。そのことから、橋本小学校でアンケートを行い、授業を実施することを決めた。事前アンケートから小学生は普段は家で、勉強・ゲーム・スマホをしている人が多いことが分かった。その結果を利用し、PowerPointを使った授業やレクリエーションを実施した。最後に事後アンケートを行うと、小学生の生涯学習への理解度の向上が見られた。しかしその中で、ゲームが趣味ならどうすれば良いのかという疑問の声も見られた。

1E7	子育ての魅力から橋本市の人口を増やそう

私たちは、橋本市で生活する中で、子育ての魅力に着目し、人口を増やすためにはどうしたらよいかというテーマで活動した。まず、現状を調べるために橋本市在住の橋本高校・古佐田丘中学校の生徒を対象に「大人になっても橋本市に住み続けたいと思うか」というアンケートをとった。その結果「いいえ」が多く、どのようにすれば住み続けたいと思う人が増えるのかという点に着目した。私たちは、子育ての魅力を知ってもらえば、将来子育てのために若者が橋本市に戻ってきてくれるのではないかと考え、橋本市の子育て支援について知るため保健福祉センターを訪問した。そこで、橋本市には多くの子育て支援があることを知り、それを中高生に伝えるため校内にポスターを掲示した。

1E8	迫りくる危機をどう生き抜く？南海トラフ地震と私たち

橋本市民の防災意識を高めることを目的に、私たちにできることを考えて活動してきた。防災に関しての知識を得るために、橋本市役所職員にインタビューを行い、地域の防災講演会に参加し、過去の震災状況を知った。そこから、高校生が率先避難者である必要があること、防災について考える機会を作ることが大切だと分かった。そして、橋本高校の生徒の地震に関する考えの現状を知るためにアンケートを行った結果、避難所を把握していない生徒がいることが判明した。生徒に現状を知り、避難所を把握してもらうため、防災マップを掲載したポスターを作成し、掲示する取り組みを行った。それに加えて、作成したスライドを通して、防災について考える機会を作り、防災意識を高める啓発活動を行った。

８．２学年探究内容

【活動計画】

月	日	曜日	2年
4	12	金	①講話・ワークショップ「ＳＤＧｓについて」
	26	金	②春休みの課題発表
	30	火	③講座「探究が変わるプレゼンテーション」
5	10	金	④先行研究を知る＋班分けアンケート
	24	金	⑤課題設定にむけて（kJ法・BS）
	31	金	⑥課題設定に向けて
6	7	金	⑦課題設定（As is/To be）
	21	金	⑧課題設定（As is/To be）
7	5	金	⑨課題設定（As is/To be）・夏休みの活動説明
	11～17	火	⑩企業訪問（スマイリーアース）
	18	木	⑪課題設定＋３年生からのアドバイス
			夏休み（地域活動・課題活動）
8	26・27	金	⑫SDGｓ大学出前講座（大阪教育大学・東洋大学・和歌山大学・近畿大学）
	30	金	⑬中間発表準備１
9	5	木	⑭中間発表準備２
	6	金	⑮中間発表準備３（シート・アンケート等を提出）
	13	金	⑯「中間発表会」（６・７限）
	19	木	⑰中間発表会を受けて１
	27	金	⑱中間発表会を受けて２（課題の再設定）
10	10	木	⑲発表準備１
	11	金	⑳発表準備２
	18	金	㉑発表準備３
	25	金	㉒発表準備４
11	1	金	㉓発表準備５
	8	金	㉔発表準備６
	15	金	㉕発表準備７
	22	金	㉖発表準備８
	29	金	㉗発表準備９
12	13	金	㉘発表準備１０
	20	金	㉙発表準備１１
			冬休み（発表準備）
1	10	金	㉚発表準備１２
	17	金	㉛「クラス代表選考会」（６・７限）
	30	木	SDGｓ探究AWARDS応募
	31	金	㉜振り返り（クラス代表選考会の自己評価・班評価）
2	7	金	㉝発表内容300字まとめ
	13	木	㉞「校内発表会」
	14	金	㉟発表内容300字まとめ・お礼状作成
3		金	㊱一年間の振り返り（自己評価・他者評価）

【主な活動内容】

２学年の創世の翼では、SDGs達成に向けて自分たちにできる取組を提言するという課題学習に取り組んだ。講演や実地研修では、探究活動についてのスキルを学び、様々な交流を通して広い価値観に触れた。中間発表では有識者へのプレゼンテーションを通して課題に対する理解を深化させる機会となった。小学校での授業実施や地元企業での企画実施など、自分たちの提言を実行に移し、考察を深め、意欲的に活動する班が多くみられた。

①プレゼンテーション講演会

日時：４月３０日（火）６～７限

場所：本校（体育館）

目的：プレゼンテーションの基本を体系的に学び、聴き手の共感を得る方法を理解することで、探究活動に役立てる。

内容：講演「探究が変わるプレゼンテーション」
　　京都芸術大学　吉田大作氏

②夏休み課題

目的：取り組むテーマについて、情報収集をおこない探究活動をさらに深める。

内容：不足している部分に注目し、課題設定、情報収集法を考え、休暇を利用して取り組むべきことを実行する。
　　夏休みに行う活動届は、依頼先についてしっかり調べ、目的や内容を明確にする

③ＳＤＧｓ探究ＡＷＡＲＤＳ応募

日時：１月３１日（金）

目的：持続可能な社会に向けて自分たちができるアクションを考え表現できる場を目的としたコンテストに応募し、活動成果を発表する。

内容：クラス代表班と希望班がプレゼンテーション動画を作製し応募する。

【校外での活動の様子】

2A1	食糧廃棄を少なく

私たちは食糧廃棄を少なくするため、日ごろ身近な存在の野菜の捨てられている部分に着目して、工夫をすれば食べられる手段を考えた。私たちはニンジンの皮が多くの人に捨てられ、食べられないという状況を知り、ニンジンの皮を工夫して食べられるようにしようと考えた。インターネットや図書館で、ニンジンについての情報を学んだが、同じような内容の情報ばかりであったため、周りの人に聞いた。その際、ごま油を使ってニンジンの皮を炒めれば、食べられるという情報を得て、実際に調理、実食し、おいしく食べることができた。このように野菜の食べられないような部分でも少し工夫を加えれば食べられ、食料の消費を少しでも抑えることができると分かった。

2A2	橋本市のより多くの人が健康を保てるように

現在、子供の運動不足や生活習慣病患者が増加していることに着目した。そして、橋本市に住む方の健康を維持するために、まず私たちが健康に関する知識をつけ、身につけた知識を伝える機会を作った。幅広い年齢の方に参加してもらい楽しく健康について学んでもらうため、橋本市役所に協力をお願いした。そこで、すみっしーのおうちのこども食堂で、健康に関するビンゴやボールを使った運動などを行った。その際、参加者に始めと終わりにイベントに関するアンケートを取った。その結果、多くの人が健康について知ることができた、また参加したいと答えてくれたので、楽しく健康について伝えることができた。

2A3	橋本市民に防災講座を開こう

私たちは橋本市の備蓄の地震対策に焦点を当てて活動した。備蓄の知識を橋本市に広めたいと考え、橋本市役所の危機管理室に橋本市の地震対策やどのような備蓄を行っているのかをインタビューした。その際、防災講座を開催するという提案をしていただいた。そこで、地震が起きた時どうするか、炊き出し、備蓄の三つのテーマについて危機管理室に防災講座を開いた。それにより、新たな地震の知識を得ることができた。また、講座を行うときは資料の見せ方や、対象を考える、テーマを一つにするとまとめやすいなどのアドバイスをいただき、備蓄の必要性というひとつのテーマに絞り、クラス発表会でクラスメイトに知識を共有した。

2A4	性についての理解

差別的思考を無くすことをテーマに性への理解を深めてもらう活動を行った。まずは私たち自身がジェンダーとLGBTQの違いについて調べ理解した。その後、橋本高校1.2年生を対象にアンケートを行った結果、違いについて明確に理解している人が少ないことが分かったため、理解度向上のための取組として、違いが一目で分かるようなポスターを制作し、教室内に掲示した。その後、クラスで同様のアンケートを再び実施した結果、ほとんどの人が違いを理解できるようになっていた。しかし、狭い範囲でポスターを掲示すれば自然と目に留まると推定し、掲示を前もって知らせなかったことが原因で、見ていない人が多く、事前に声掛けをすることが改善点だった。

2A5	使いやすい駅にするために

私たちは、橋本駅をより良い駅にするためにというテーマで活動してきた。当初は、ゴミのポイ捨てを減らすことを目標にゴミ箱の設置を橋本駅に提案したが、困難だった。そこで、橋本高校の生徒を対象に行ったアンケート結果により、橋本駅に座る場所が少ないという問題を解決するためベンチの設置をすることにした。まず、班員が使わなくなったベンチを譲り受け、本校校務員さんに協力してもらい、自分たちで補修を行った。安全面を保証したうえで橋本駅に交渉し、ベンチを設置した。結果として場所が少しわかりにくいという改善点が見つかったが、タクシーを待つときに便利という意見もいただけたため、橋本駅をよりよくするという目標を達成出来たと言える。

2A6	次世代に繋ぐ子育て

私たちは初めに、市役所に寄付された赤ちゃん用品をバザーによって新しく親となる人たちの金銭的負担を減らそうと考えていた。実際に保健福祉センターの子育て世代包括支援センターとこども課の方に提案すると、この制度を知らない人が多いため受け取ってくれる人が少ないということが分かった。そこで、学校の先生を対象に市役所で赤ちゃん用品を受け取れるということを知っているかのアンケートを取った。アンケートで6割の先生が知らないと答えたことから、市役所で赤ちゃん用品を受け取ることができることを周知することに焦点を置き、橋本市の公式LINEを活用すれば、よりたくさんの人に知ってもらえると考えた。

2A7	日本のマナーを外国人へ

「外国人観光客の電車の利用の違い」を課題とし活動した。高野山を訪れる際、多くの外国人観光客が電車を利用している。その中で、日本人と外国人の間で電車の利用の仕方に違いを感じたため、外国人も日本人も快適に電車を利用できるようにしたいと考えた。そこで高野山で、駅員や外国人に日本のマナーについてインタビューを行い、日本のマナーについてのポスターを作成した。ポスターは日本語・英語・中国語・フランス語・ロシア語の5ヶ国語作成し、高野山駅に掲載した。また、神社・お寺の参拝方法などを掲載したガイドブックも作成し、高野山駅に設置した。ガイドブックに掲載したアンケートには、利用者の100%が役に立ったと回答してくださった。

2A8	外国人が安全に日本で過ごすために

近年、日本では災害が増加している中、外国人観光客の増加が注目されている。高野山駅で外国人観光客にインタビューをすると、地震の経験がないことや、地震が起きたときに取る行動を知らない人が過半数を占めることが分かった。そこで、地震に着目したパンフレットを作成し、高野山で外国人観光客に配布した。また、地震が起きたときに取る行動をまとめたポスターも作成し、高野山駅に掲示した。パンフレットに掲載したアンケートの結果から、多くの外国人観光客の方が日本の災害について理解が深まったことが分かったが、あまり理解できなかったと回答した方もいたことから、さらに簡潔にまとめ直すなどの改善点がある。

2A9	もったいないをおいしいに

私たちは、日本の食品ロスを減らすための活動を行った。現在、日本の食品ロスのうち、野菜が半分の割合を占めている。それを受け、野菜の中でも一般的に知名度の低い野菜に着目し、売れ残りの調査と知名度の低い野菜を買うかどうかのアンケートを実施した。その結果、知名度の低い野菜は比較的売れ残りが多く、購入者が少ないことが分かった。この問題を解決するため、野菜の直売所であるやっちょん広場に、調査対象とした野菜のレシピを展示し、その野菜を知ってもらい、買ってもらうことにした。レシピは30人以上の人に見てもらうことができ、レシピを置く前と比べて、対象にした野菜の売れ残りも大幅に減少した。

2A10	身近なことから取り組む海洋問題

私たちにできる解決策として海洋汚染の原因の一つである生活排水に焦点を当て活動した。調べていく中で、生活排水が環境に与えるダメージは非常に大きく、赤潮などの重大な環境問題を引き起こし、また原因となる生活排水は量が少なくても、私たち一人ひとりが出すことで大量になることが分かった。その中でも温水が環境に与えるダメージをアンケートを使ってクラス内で尋ねたところ、ほとんどの人が知らなかったことが分かった。このことについて私たちが考えた対策案は温水を極力使わないということだ。誰もが簡単に取り組め、かつ身近なものにした。この案を多くの人に広めるためにポスター作成などの広報活動が出来ていないことが課題である。

2A11	紙の無駄遣いを減らしデジタル化を進める

私たちは、紙のごみについて焦点を当てて活動した。最初私たちは、生えている木を伐採し紙に変えていると考えたが、調べてみると紙用に植えた木を伐採していることが分かった。そこで私たちは、紙の使用量を減らしデジタル化を推し進めていくという目標を立てた。クラスにアンケートを取った結果、授業は教科ごとにパソコンを使用するかプリントで受けるかで意見が分かれた。また、今まで配布していたプリントはパソコンで送ってほしいかというアンケートでは、プリントのままで良いという意見が多数だった。結果から完全にデジタルにすることは難しいということが分かった。

2B1	知ってほしい！外国人労働者の現状と凄さ

私達は、最近日本で大きな問題になっている外国人労働者問題について、外国人労働者の定義や課題、日本政府の対応、さらには日本の現状を踏まえた上で、外国人労働者を受け入れるメリットとデメリットなど幅広い視点で探究した。そこで、実際に外国人労働者の経験がある方へのインタビューによって、文化の違いや他国と違った日本人の特性などが大きな壁を作っているという現状があり、壁を取り壊していくには教育が非常に重要な課題であると捉えた。今後も、これらの問題に対して集団と個人が出来うる行動について分析し、意識を変えていく必要性がある。

2B2	農産物の消費を増やそう

私たちは当初、飢餓を減らすために農家を増やす必要があると考えた。そこで、JA紀北かわかみを訪問し、アドバイスをいただいたが、農家自体を増やすことは難しいという結果であった。その際、食品ロスを減らすには生産量と消費量を同じにする必要があると分かった。そのことから、高校生に農産物を消費してもらうことを課題に設定した。活動内容としては、実際に調理した農産物を食べてもらうことは安全上の問題で難しいため、調理したものを宣伝するポスターを作成した。しかし、1枚のポスターではより多くの人に農産物の魅力を知ってもらえたか疑問であり、宣伝の仕方を工夫するという点で課題が残った。

2B3	すべての子供たちが安全に生活するために

私たちは小学生の交通安全に着目し、小学生に交通ルールを再認識してもらえるような取組を探究した。最初にインターネットで小学生の交通事件数や事故が起こりやすい時間帯などを調べ、その中から身近にいる小学生はどう感じているのかを調査するために、橋本小学校の児童と教職員にアンケートやインタビューを実施した。その後、その内容から交通安全を学べるクイズが入った紙芝居を作成し、かつらぎ町妙寺公民館の館長に協力を仰ぎ、妙寺公民館で行われたイベントで小学生を対象とした紙芝居の読み語り実践を行った。

2B4	子供たちのコミュニケーション能力を高めるために

私たちは、小学生の「自分の気持ちを主張する力」と「他者を受け入れる力」を伸ばし、コミュニケーション能力の向上に取り組んだ。そこで、楽しくコミュニケーション能力を向上させるため、「Well-beingトランプ」というお題が書かれたトランプを活用した。それはコミュニケーション能力に限らず、社会性・自己理解・思考力の養成にもつながり、地域食堂で実践したことで目標達成に近づいた。さらには、次の段階として小学生だけなく高校生のコミュニケーション能力の向上を目標とした。そこでは「ボキャブレッショントランプ」というレベルアップしたお題が書かれたカードゲームを作成し、クラスで実践した。今後もあらゆる教育の機会での活用を検討している。

2B5	We can continue living

人力発電は環境にやさしく、持続可能であるといったメリットがある中、発電するための装置が必要なことや効率の悪い発電量など懸念点が多くある。そこで私たちは、人力発電がより活躍することが期待できる災害時や避難所に着目し、探究を進めた。まず、災害時の電力状況を調べるために、橋本市役所の危機管理室にインタビューをした。その結果、電気を蓄えられ持ち運び可能なポータブルバッテリーの存在を知り、メリットやデメリット、ポータブルバッテリーで利用できるものを主に調べた。その後、ポータブルバッテリーの認知度、所持率などのアンケートをクラスで実施し、集計した。

2B6	橋本市でよりよく暮らすためには

橋本駅をより身近で安全に保つための課題として、ゴミのポイ捨てが挙げられる。そこで私たちは、ポイ捨ての現状を知るため、実際に清掃活動に参加したり、時間帯によるゴミの量を調査したりするなど、写真として記録を残した。さらに、ポイ捨て防止のポスターを作成し、橋本駅に掲示することでポイ捨ての防止を呼びかける活動を実施した。その結果、ポスターの掲示前よりも掲示後の方が、ごみの量が明らかに減少したという一定の成果を得た。課題としては、いかに継続してポイ捨てに対する人々の意識を変えることができるかという点が挙げられる。

2B7	フードバンクとフードパントリー

私たちは、企業や個人から寄付された食品を保管するフードバンク、また、その食品を地域コミュニティのなかで直接必要とする人々に配布するフードパントリーに着目し、地域住民や子育て世代に実施することを目標に探究を進めた。そこで、地域食堂のある妙寺公民館に直接提案し、承諾を得て、協力願い・宣伝のチラシの作成、配布を行った。その結果、4名の方に協力してもらい、お米約18kg、みかん62個、ネーブル93個、白菜1株、大根3本が集まった。それを小分けし、22家庭に配布した。余った食材は地域食堂に寄付した。

2B8	橋本市のごみを無くそう！

私たちは、海洋ごみの削減に焦点をあて、探究を行った。まず、海洋ごみはどこからくるのかということについてインターネット等を駆使し、陸から河川を通じて漂着する現状を把握した。そこで、実際に紀ノ川に行ってごみの調査を行うと、プラスチックごみが大半を占めていた。次に、問題解決に向けて、大勢の人に重要な問題を一度に伝えるのは難しいため、クラス内でプラスチックごみについて学んでもらうことを目的とした模擬授業を行った。その結果、周囲の人たちの海洋ごみに関する意識を変えることができ、海洋ごみの問題解決に一歩近づけることができた。

2B9	髪の毛の持つ可能性

近年家庭排水や工業排水から排出される油が海に流れ着くことが問題視されいてる。そのため私たちは、油を吸う特性を持つ髪の毛を生かし、流れ出る油の削減を目標とした。そこでまずなぜ髪の毛が油を吸うのかを追求するため、髪の毛に関する論文を読み、髪の毛の成分と構造的な理由によるものだと突き止めた。その後、美容院で髪の毛を提供してもらい、油を含んだ水に入れる実験をすることで視覚的に髪の毛が油を吸うという成果を得た。また、実験をすることによって、髪の毛が油を吸う最大量も計測できたが、髪の毛を白癬菌を含むコンポスターに入れ肥料にする実験は、髪の毛を微生物が分解するには多くの時間がかかる点で課題が残った。

2B10	森林とゴミ問題

私たちは森林とゴミ問題に焦点を当て取り組んだ。まずは、森林の課題や現在の状況を調べ、疑問に思ったことを解決するために、和歌山県緑化推進会へのインタビュー取材を実施した。その結果、和歌山県の取り組み状況や私たち学生に求められる事柄など、森林問題につながる多くのヒントを得た。しかし、和歌山県の森林では人手不足によって管理しきれない、手入れが行き届いていない森林が増えているという大きな課題にも直面した。これからは、緑の羽根募金やゴミ拾いなどのボランティアへの参加を通して、森林減少への貢献に迫っていくつもりだ。

2C1	フードロスをなくそう

私たちは「フードロスの活動」に着眼して探究活動を行った。まず、「フードロス」について、過去からの量の推移（事業系、家庭系別）や一人あたりの量、その要因等について調査した。次に、私たちがよく利用する食品を扱うお店の現状について、聞き取り調査を行った。まず、スターバックスコーヒーでは、私たちが知っていた「30%off活動」に加え、企業として独自のリソースポジティブカンパニーなど積極的に取り組んでいることがわかった。また、くら寿司では「魚100%プロジェクト」や「my箸割引」などフードロス以外でも環境に配慮した活動を行っていることがわかった。これらを通して、フードロス等の現状について認識を深めることができた。

2C2	貧困＝子ども食堂のイメージを減らす

私たちは貧困＝子ども食堂のイメージを減らすことをテーマに活動した。実際に子ども食堂のボランティアに参加し、どのような課題があるのかをインタビューした。その結果、利用者の減少という課題が見つかった。理由として、「身近にどれくらいの子ども食堂があるか」「子ども食堂の存在を知っているが、食事以外の活動もしていることを知らない」という人が多かった。そこで、子ども食堂の存在を多くの人に知ってもらうことが必要だと考えた。そのため、子ども食堂の「食事以外の活動」をメインに取り上げたオリジナルの案内パンフレットを作った。それをクラスなどで配布し、少しでも子ども食堂について認識を高めることができたと考えている。

2C3	節水で地球を守ろう

水質汚染や水不足などの水問題を解決することを目標に「節水で地球を守ろう」というテーマを設定した。 橋本小学校では、節水の認知度と行動率のアンケートを先生と児童に行い、3週間小学校の手洗い場にポスター掲示をした。ポスターは二種類で、一目で節水を促すものと、節水について詳しく記載したものにした。その後、再度アンケートを実施し、認知度と行動率の変化を比較した。 予想より児童の「節水」の認知度が低かったが、認知度や理解度、行動率の向上が見られた。他にも橋本駅の手洗い場にポスターを掲示した。外国人観光客にも実行してもらうため英語表記を加えた。この検証には至らなかったが、節水の大切さを啓発できたと考えている。

2C4	ジェンダー問題を解決して、すべての人に平等な教育を

私たちは、すべての人に平等な教育を受けてほしいという願いから活動を始めた。SNSなどで性別に悩んでいる投稿や、教育を受けるうえでのジェンダー問題に関する投稿を目にすることが多かったからだ。最近では、LGBTの認知度は約70%に増えているが、外国の小学生で教育を受けることができない人の割合は約8%であり、その中でも女性のほうが多いと分かった。そこで、日本の小学校教師の目線からこの違いをどうとらえているのかを知るためにアンケートをとると、予想通り男性のほうが優遇されているという結果であった。昔ながらの固定概念に基づいた風習等が根強いからだという。今後は、その改善に向けてどう取り組むかを考えていきたい。

2C5	小さなところから自然をきれいに

再生紙は、環境保護や資源の有効活用において重要な役割を果たしている。私たちの活動は再生紙の利用促進とその重要性を広めることに焦点を当てた。まず、友人や先生方に再生紙の製造過程やその環境への影響について図や写真などを用いてわかりやすく説明した。さらに、実際に再生紙を用いたアート作品を作成することで、楽しみながら学ぶ機会を提供した。また、地域のイベントにおいて、再生紙の利点やリサイクルの重要性を伝えるパンフレットを再生紙で制作し、多くの人に配布した。これらの活動により、再生紙の認知度が向上し使用を検討する人が増えたと考えている。また、私たちの再生紙や環境保護に対する認識もより深まった。

2C6	子供たちの生活を守るために

私たちは「人や国の不平等をなくそう」のテーマとして、特に貧しい国の子供たちへの支援について活動することを考えた。調べる中で、ユニセフの活動と私たちの活動目標が同じ方向であることに気づいた。そこで、ユニセフについて歴史や活動内容、私たちができることなどを詳しく調べ、「100円の旅」という募金活動に協力することを決めた。具体的な活動として、私たち自身も数100円の募金を行うとともに、身の回りの友人の協力を得て合計数千円の募金を集めることができた。募金額は少額ではあるが、この取り組みを通して今後もユニセフの活動に協力し、貧しい国の子供たちへの支援を継続的に行うことが重要であると考えている。

2C7	橋本駅ごみゼロへ

私たちの班は、ポイ捨てについて解決しようと取り組んできた。海岸にあふれるゴミ、マイクロプラスチック問題の原因は、町中にあふれるポイ捨てが一つの原因である。そこで、ポイ捨てを減らすために、橋本駅にポイ捨て防止を呼び掛ける啓発ポスターを貼った。そして、1ケ月程度その効果を検証したが、残念ながらポイ捨ての数は減少しなかった。次に、私たち自身が橋本駅周辺のゴミ拾いを行う活動をしたが、橋本駅周辺にはあまりゴミがなく、橋本駅近くの公園やコンビニまでの道のりにポイ捨てが多いことがわかった。これらの取り組みを通して、今後も一人一人のポイ捨てやゴミの減少についての意識を高める必要があると考える。

2C8	外国人向けのハザードマップの制作

私たちは、現在の日本において外国人観光客の被災者数割合が高いことに着目した。また、調べる中で、橋本市には英語版ハザードマップが市役所にしか置いていないので、外国人にとっては不便であることが分かった。そこで、自分たちで英語版ハザードマップを作り、橋本駅などに掲示してもらうことや、インターネットに掲載することを取り組みとした。その過程で橋本市の危険な場所や通行量の多い場所を調べ、実際に現地に行って確認し、既存のものを参考にしつつ、独自の英語版ハザードマップを作成することができた。ただ、橋本駅などに掲示するまでは至らなかったので、今後も取り組んでいきたい。

2C9	来る日の災害に備えて

私たちは当初「高校生に地震災害時の基礎知識を確かめる」というテーマで取り組む予定で、防災に対する校内アンケートをとった。その結果、本校生徒の防災に対する基礎知識が欠如していることに気づいた。そのため、「高校生のための地震災害時のガイドブック」を作成し、それに対応するQRコードを配布する活動を行った。ただ、QRコードを手にとってくれる人が少なかった。理由は、自ら手に取るということが手間であったことや配置場所にも問題があったと考えらた。そこで、今後の活動ではこれまでの改善点を生かして、高校生の集まる場所で手渡し形式での配布等を行うことを考えている。

2C10	FCS認証を広めよう

私たちは「陸の豊かさも守ろう」について取り組み、解決策として森林を守るマークであるFSC認証マークに着目し、それを知ってもらうことにした。そこで、FSC認証マークの認知度を調べるアンケートを教師・生徒を対象に行った。その結果、教師も生徒も認知度が低いことがわかり、認知度を向上させる取り組みとしてパンフレットを作り、配布することにした。そのため、FSC認証マークについて様々なサイトで情報収集を行い、三つ折りパンフレットにすることでコンパクトで見やすいように工夫した。パンフレットに載せきれないものは、サイトでより詳しく説明した。パンフレットは高い評価を得ることができたので、FSC認証マークの認知度を上げることができたと考えている。

2D1	食品ロス削減のために私たちができること

まず食品ロスの現状を知るために多様な方法で情報収集を行った。国内外の現状や取り組みについてインターネットを用いて調べ、スーパーや先生方、フードドライブにインタビューを行うことで、取り組みや意識を知ることができた。次にこれらの調べたことを多くの人に知ってもらうために広報をした。ラジオでの放送や食品ロスに関するクイズサイト、ホームページ、啓発のポスターなどの作成を行った。この活動から私たちにもできることがあり、その方法が知られていないものもあると判明したので、食品ロス対策の正しい知識を広めることが大切だとわかった。

2D2	Stop Determining Gender stereotype（ジェンダーへの固定観念をなくそう）

ジェンダーについての理解を促進することを目指し、橋本市が開催したジェンダーに関する講演会に参加した。講演後、クラス内でクイズ式のアンケートを行ったところ、約半数がジェンダーについての基礎的な知識を持っていないことが判明した。この結果を受けて、橋本市がジェンダーに関してどのような取り組みを行っているのかを市の職員にメールで聞いた。それらをまとめた内容を、クラス内のジェンダーに関する知識を向上させることを目的とし、発表の際にクラスに周知した。しかし、ジェンダー問題を理解してもらいづらかったため、わかりやすく学ぶ方法を考え、橋本高校の2年生を対象にYes/No診断を作成し配布した。

2D3	橋本駅での外国人とのコミュニケーションを円滑に

インターネットで調べると、日本は世界人助け指数が142ヶ国中139位と特に低いことがわかった。駅員が英語で質問されているのを目撃したことで、外国人利用者とのコミュケーションを円滑にし、気軽に人助けを行えるよう、まずは環境を変えることに目を向けた。駅員にインタビューを行い、英語、韓国語、中国語、日本語で多々聞かれる質問をまとめた「OTASUKE PAPER」を作成した。しかし、それは小さくて目立ちにくく、設置場所も人目がつかないところだったので利用者は0人であった。改善点として紙を大きくし目につきやすい場所、色を使う等の案を考えた。

2D4	大切なペットを守る防災

私たちは、橋本市の防災マニュアルを調べ、避難時のペットの扱いが間に合っていないことが分かった。そこで、クラス内アンケートの実施、防災講演会への参加を通して、災害時にペットを守るために、事前の準備に着目すべきだと知った。ペットの飼い主たちに重要性を広めるために、準備物やしつけなどについて書いたペット防災パンフレットを作成した。先生からのアドバイスをもとに、より完成度の高いものにした。また、QRコードを活用し、効果を可視化させた。それを市役所や動物病院で設置した。そうすることで、ペットを飼っている人の防災意識を高めることができた。

2D5	ゲームでSDGsを身近に

私たちは、牛乳パックリサイクルに着目し、高野口小学校が実際に牛乳パックリサイクルに取り組んでいることから、話を聞きに行った。そこで小学生が活動の意図を理解せずに牛乳パックリサイクル取り組んでいることが判明した為、小学生のSDGsの認知度向上と、知識の再確認を目標に取り組むことにした。楽しみながら学べることに重点を置き、牛乳パックからSDGsに関連するすごろくを作成し、授業を行った。振り返りシートから生徒の理解度が高まったと感じた。この活動を通し、SDGsについてただ単に教えるだけでなく、楽しみながら考えてもらうことで、今後の活動意欲向上まで繋げることができ、持続的に学び続けるきっかけとなった。

2D6	廃棄野菜の有効活用

私たちは品質に問題は無いが形や傷の有無等の原因で市場に流通せず、大半が廃棄されているという現状がある規格外野菜に着目した。廃棄野菜は年間290万トンで総生産量の25%から30%占める量であることに着目し、無駄にならないように活用するための活動を行った。そこで、年々子ども食堂の数が増えている中で、やっちょん広場で出る廃棄野菜を子供食堂に提供する支援を行うことに決定した。この活動を通して、子供食堂とは関わることがなく知ることが出来なかった、人手不足や材料を集める際に多額の資金が必要であることなどの課題に気づき、大人だと規模が大きくなり実施しにくい活動を私たちが行ったことで、この取り組みが子供食堂にとって効果的であると判明した。

2D7	学校のごみを利用したリメイク

私たちは学校のごみの再利用に焦点を当てた。本校の校務員に学校のごみに関するインタービューをし、「学校のごみを自由に使ってもいい。」という回答から、ダンボールをリメイクした。ダンボールを引き出しのようにリメイクして利用し、プリントや教科書類が散乱している生徒のロッカーの中を整理した。しかし、反省点・改善点としては、初期の段階でダンボールのサイズが大きすぎたという点や、耐久性に欠けており、壊れてしまったという点などがあったことや、校内という狭い範囲の中で活動が終わってしまったことなどがあった。

2D8	人と環境にやさしい制服を

私たちはまず、生徒が現在の制服にどのような意見を持っているか知るため、クラスメイト・全校生徒を対象として、計二回のアンケートを実施した。アンケートの結果、主に女子生徒が多く制服への不満を抱いているということがわかり、機能性・デザインにおいて性差の少ない「ブレザースタイル」の制服の導入に向け活動することに決めた。また、近年制服を変更した数校の高校に電話インタビューを行い、制服の変更の手順を聞いた。最後に活動のまとめとして、これまでの調査や情報収集の結果を踏まえ、制服の変更案を作成した。「快適な学校生活を過ごせる」ことをコンセプトとして、通気性の良いポリエステル生地を採用した制服のデザイン案を作成し、橋本高校内に設立された制服検討委員会に提出した。

2D9	海の豊かさを伝えよう

まずは海を管理する団体にインタビューをおこなった。その結果から海の現状を多くの人に「伝える」ことを目標として活動していくこととし、私達自身が誰かに伝えてみたらよいのではないかと考えた。伝える対象としては次の世代の担い手であり情報拡散能力の高い小学生が適任だと考え、実際に授業をしてみることを企画した。橋本小学校の協力のもと、授業をおこない、問題の現状や私達の考える解決方法などを伝えた。授業後にとったアンケートでは「楽しく学ぶことができた」などの声があり、非常に興味をもってもらうことができた。また、「色々な人に伝えるようにしたい」と言った意見もあり少しでも多くの人に「伝える」ことができた。

2D10	農地へのポイ捨てを減らす

インターネットで農地にどのようなごみが捨てられているか、農地以外にもどのような特徴の場所に捨てられているのかなどを調べるとともに、クラス内で「ポイ捨ての経験」「場所」「ポイ捨て禁止条例」を知っているかのいアンケートを取った。その後、農家には「捨てられているごみの種類」について、市役所には「ポイ捨て禁止の看板申請者の年齢層,ごみの多い場所・時期,そのほかに行っているポイ捨てについての活動など」についてインタビューを行った。これらから、何をすればごみの数を減らせるかの実験として、ポイ捨てを防げるようなネットを立て、市役所から看板ももらった。この結果から対策の効果の有無を比較検討した。これらの活動により、ポイ捨てされやすい時期があること、ネットを立てることはポイ捨てを減らす対策として一定の効果があることが分かった。

2E1	食糧の無駄を減らす

コンポストの利用によりフードロスや生ごみを減らし、二酸化炭素の排出を減らすことをテーマにした。私たちの課題をコンポストのメカニズムとその結果にしぼり、橋本市でのコンポスト普及のために行われている取り組みに参加し、それを利用している世帯数や効果を調べ、コンポストを自作した。橋本市ではコンポストを利用している世帯数は多く、橋本市のコンポストの普及が進んでいる。現在の橋本市でのコンポスト普及による効果は、可燃ごみの収集回数を週2回から週1回にすることができ、二酸化炭素排出量と約1億円もの経費を削減することができていた。このことから、コンポストは効果的な取り組みであることが分かった。

2E2	子育てを楽しくする方法

私たちは人々の健康について考える中で、子育てをする保護者の方の精神的健康に着目して活動した。子育てで大変なこととして「保護者自身の自由な時間がないこと」が多く挙げられることが課題である。そこで保護者の方を対象に「子育てで1番大変な家事」に関するアンケートを作成した。こどもの年齢によって結果に差が出たが、片付けの項目が最も多かったため、こどもが自主的に片付けができるおもちゃ箱を作った。デザイン性の工夫は良かったが、耐久性に改善点があった。この活動からこどもの年齢によって大変だと感じる家事に違いがあると分かった。またこどもが自主的に動き大人も楽しむということが、子育てを楽しむ上で効果的だと分かった。

2E3	働き盛り世代の運動不足解消

私たちは20～50代の働き盛り世代の運動不足解消をテーマに活動に取り組んだ。運動を行っている企業2社にインタビューを実施した。その結果から軽いストレッチやウォーキングでもかなりの効果が得られることが分かった。次に、橋本高校の先生方に生活習慣などを尋ねたインタビューから、やはり働き盛り世代では運動不足の割合が大きいことが分かった。そのことから先生を対象に1回30分の運動イベントを4回開催した。多くの先生に運動不足解消を実感してもらえることができた。しかし、時間の都合などから持続性に欠けてしまっていた。

2E4	地産地消でおいしく　地球を健康に

地球温暖化対策としてCO_2の排出を減らすことを目標とし、地産地消を広めるための取り組みを行った。生産地から食卓の輸送距離を短くすればCO_2の排出を最小限に抑えられると考えた。小学生を対象に地産地消の魅力を伝えるための紙芝居を作成し、発表した。小学生を対象にすることで、将来的に地産地消を意識してもらえるということを期待したからである。発表後に小学生にアンケートを取り、私たちの発表が小学生の環境問題についての学びにつながると気づいた。また、この活動から環境問題の解決だけでなく、地域の方々と関わることが地域コミュニティを活性化させることになるということも分かった。

2E5	本の回収

私たちは本の回収をすることで日本のリユース率を上げることを目標とした。まず本のリユースがどのくらい行われているのかを知るために校内アンケートを行い、その結果をもとに校内にコンテナで作った回収ボックスを設置した。橋本高校でいらなくなった本の回収を行い、橋本市図書館の「みんなの書斎」という本の持ち入れ、持ち出しが自由なコーナーに合計41冊の寄付を行った。次に日本のリユースの活性化を促すため、みんなの書斎の認知度を上げるためにみんなの書斎やリユースを呼び掛けるポスターを作成し、校内に掲示した。この活動を通して、学生の本のリユース率が低いこと、橋本市全体での本の供給量が足りないことが分かった。

2E6	手作りエコバッグを使ってもらおう

私たちは、廃棄される古紙を有効活用するため、学校図書館から廃棄予定の新聞紙をいただき、新聞エコバッグを作成した。そして、その活動を地域の方々に広め、環境問題に興味を持ってもらうために、「まっせはしもと」やファミリーマート古佐田店で計150枚のエコバッグを無料で配布した。また、まっせはしもとではエコバッグの作り方と活動内容をまとめたチラシを配布し、ファミリーマートでは活動の宣伝ポスターを掲示した。この活動を通して、エコバッグを使ってくださる方は、若い方より年配の方のほうが比較的多いことが分かった。また、活動内容に関する紙を配布・掲示することは、より強く使用者の興味を引くために効果的だと判明した。

2E7	古紙回収プロジェクト

私たちは、橋本高校と古佐田丘中学校における古紙回収をテーマに設定し、資源の有効活用と二酸化炭素の排出を削減することに取り組んだ。まず、橋本高校の1・2年生を対象に古紙に関するアンケートを行ったところ、プリントやお菓子の空き箱などの古紙を可燃ごみとして捨てる生徒が多いことが分かった。そこで、可燃ごみに捨てられる古紙を減らすために、段ボールと赤いフェルトを使用してポストに見立てた古紙回収ボックスを製作し、校内4か所に設置した。結果として、模試が実施される日に特に多くの古紙が集まり、2週間で合計55kg回収することができた。これは古紙回収業者の「紙の杜」ポイント制度に基づくと約100円に値する。

2E8	吸い殻回収24時！！

タバコのポイ捨ては、プラスチック汚染や、有害物質により大気汚染や地球温暖化を引き起こすなど多くの問題がある。また、吸い殻のうち約3分の2はポイ捨てされており、今回はそのようなポイ捨てをなくすために、近年注目されている「投票式吸い殻入れ」をポイ捨ての多い橋本駅に設置して、吸い殻の回収を行った。投票式吸い殻入れとは行動経済学の考えにより、灰皿に二者択一の設問を記載し、使いたくなる仕組みを取り入れたものである。結果、2週間で500本以上の吸い殻を回収することに成功し、駅周辺に落ちている吸い殻は減った。

2E9	うつくseaを目指seaて

私たちは、世界の海からごみを減らすために私たちができることを調べる中で、自らでごみを海に流れ込む川で回収した。身近なもので効率よく川に流れるごみを回収するために、海に流れ着くごみの種類、川のごみの流れ方を調べた。そこからペットボトルに照準を定め、川にごみを回収する「ゴミ回収ボックス」を制作した。そして、紀の川漁業協同組合より承諾をいただき、橋本川の河口の紀の川との合流付近に設置した。二週間設置したところ、目標としていたペットボトルを4本回収することができた。世界中の海ごみを減らすためには一人一人や世界中の企業が積極的にごみの回収を行わなければならないことが分かった。

2E10	海の景観や海洋生物をゴミ問題から守ろう

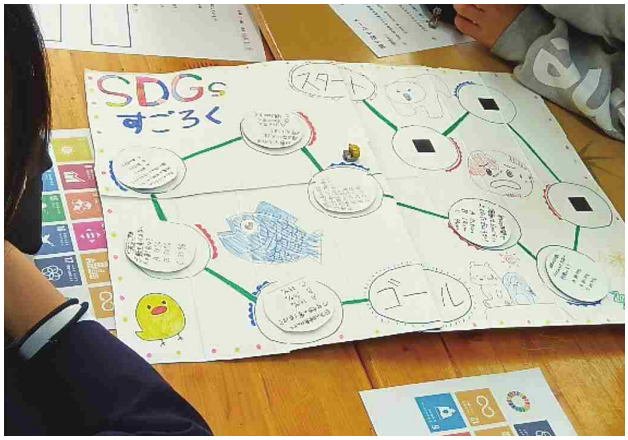
ペットボトルの分別について伝え、ポイ捨てを減らすことに取り組んだ。「分別で海の環境を守ろう」という趣旨のポスター・動画を作成し、ポスターは校内3カ所のゴミ箱横に貼り、動画は玄関前モニターで、3日間登校時間に放送し、活動前後でのペットボトル分別率の変化を校内で調査した。この活動を通して、全世代を対象とした調査より分別率が低く、適当な分別方法を知らない人も多いこと、ラベルよりキャップを除去する割合のほうが高いことが分かった。また、動画を放送することは、見る人の注目を引きやすく、啓発に効果的だと分かった。元々ある方法を使うだけでなく、新しいものを考え、作る姿勢が必要だと学んだ。

2E11	林業従事者の減少の改善

現在、日本国内では放置林の増加が問題となっている。私達は放置林の増加の改善をテーマに活動した。放置林は森林の多面的機能を阻害し、私達の生活に少なからず悪影響を与える。また、放置林を手入れし適切に管理することで、空気中の炭素を固定し地球温暖化の改善が期待できる。放置林の増加の原因としては、林業従事者の減少・高齢化、所有者不明の森林地などがある。私達は林業従事者の減少を課題に設定した。この課題に対する解決策として緑の雇用等があるが、私達は新規就業者の確保のためにまずは林業に興味を持ってもらおうと考えた。具体的に考えた解決策としてはポスターや広告による紹介だ。

2E12	FSC認証マークの認知度を上げよう

私たちは世界の森林減少の原因である違法伐採をなくすために取り組むFSC認証マークに着目し、認知度が低いことからマークの認知度を上げることをテーマにした。FSC認証マークの認知度が上がると、商品購入時にマークを意識して購入してくださる人が増え、違法伐採が減少すると考えたからである。そこで私たちは、橋本高校の先生方を対象としたアンケート形式で認知度を上げる取り組みを行った。その結果、多くの先生方にこのマークを知っていただき、さらにマークを意識して商品の購入をしたいと感じてもらうことができた。この活動から人の認知度を上げるためには、自分たちが積極的に行動することで、人の意識を変えることが可能だと分かった。



９．３学年探究内容

【活動計画】

月	日	曜日	3年
4	12	金	①オリエンテーション
	26	金	②ＳＤＧｓ探究報告書作成１
5	10	金	③ＳＤＧｓ探究報告書作成２
	24	金	④ＳＤＧｓ探究報告書作成３
	31	金	⑤探究活動を振り返る１
6	7	金	⑥探究活動を振り返る２
	21	金	⑦講演（探究活動を振り返る）
7	5	金	⑧小論文講演をうけて
	12	金	⑨小論文模試
	18	木	⑩１・２年生へアドバイス　自己評価
8	30	金	⑪面接指導
9	5	木	⑫小論文模試事後学習１
	6	金	⑬小論文模試事後学習２
	13	金	⑭ＳＤＧｓ卒業レポート１
	27	金	⑮ＳＤＧｓ卒業レポート２
10	11	金	⑯ＳＤＧｓ卒業レポート３
	18	金	⑰ＳＤＧｓ卒業レポート４
	25	金	⑱ＳＤＧｓ卒業レポート５
11	1	金	⑲ＳＤＧｓ卒業レポート６
	8	金	⑳ＳＤＧｓ卒業レポート７
	15	金	㉑ＳＤＧｓ卒業レポート８
	22	金	㉒ＳＤＧｓ卒業レポート９
	29	金	㉓ＳＤＧｓ卒業レポート１０
12	13	金	㉔ＳＤＧｓ卒業レポート（相互評価）
	20	金	㉕3年間の振り返り自己評価

【主な活動内容】

３年生の創世の翼の時間では、これまで自分たちが取り組んできた探究活動を振り返り、その活動を通しての気づきや考えを言語化する学習を行った。

ＳＤＧｓ目標達成のために取り組んできた２年での活動をＳＤＧｓ探究活動報告書にまとめ、自己に対する気づきや課題を文章にし、その後、現在、探究活動を進行している後輩に一人ひとり直接アドバイスをした。また、各自の進路とＳＤＧｓを関連づけた課題を設定し、社会問題の現状と問題を調べ、その背景や原因を分析して考察した内容を 2000 字のＳＤＧｓ卒業レポートとしてまとめた。

①小論文講演会

日時：６月２１日（金）７限

場所：本校（体育館）

目的：「小論文」を書く意義や書くための準備、手順などを理解させる。
探究活動の締めくくりとして「自己ＰＲや志望理由書」の書き方についての準備や手順、注意点などを理解させる。

内容：講演「探究活動を振り返る！新たな気づきを原動力に、自分の道を進もう！」
学研教育みらい　岡田　眞奈美　氏

②１・２年生へアドバイス

日時：７月１２日（金）７限

場所：本校（各ＨＲ教室）

目的：・２年間の探究活動の振り返りをもとに、自分の言葉で後輩に直接アドバイスをし、探究活動のまとめとする。（３年）
・先輩からのアドバイスを受けて、探究活動のポイントを知り、２学期以降の活動に繋げる。（１・２年）

内容：探究活動を振り返って考えたことをもとに、探究活動で意識することや後輩の励みになるようなアドバイスをする。

【3年間の感想】

・初めは探究活動をして意味があるのかと疑問に思っていたけど、今こうやって 3 年間を振り返ってみると、探究活動を通してプレゼンテーションを作成する力や、課題を発見し解決するための方法を考え実行する力など、いろいろな力を身につけることのできる授業だったと思う。また、SDGs 卒業レポートを書き始める前は、1900 字も書けるわけないと思っていたけど、いざ書き始めてみるとスラスラ書くことができ、自分が将来なりたいと思っている職業の現状を知ることができたし、大学に行ってからのレポートを書く練習の良い機会にもなった。

・自分を見つめなおせる良い機会にもなったし、面接でも生かすことができました。そして、今私が生きている社会は充実していて改善点が全くないと初めから勝手に思い込んでいましたが、考えてみると私たちにでもできることがたくさんあり、社会に対する視点が変わる機会になりました。私は社会の一員であること以上、任せきりにはならず自ら課題を発見して解決していくことが大切だと感じました。

・3年間の探究活動通じて1つの考えや情報に固執せず多角的な視点を持つことが大切だと感じた。

・二年生の探究で計画的に進めたのは、一年生の時にもっとこうしておけばよかったという後悔を活かせたからだと思います。クラスの代表に選ばれたいという気持ちで必死に三人で頑張ることができてとても良い経験になりました。

・探究活動をした内容に興味を持ったことで、進路決定することができた。自分の身近な問題に取り組んだからこそ私たちが今できることを考えるきっかけとなった。学校の勉強だけでは身につけることができなかった力をつけることができ、将来に役立つことができるので良い経験となった。

・年齢にかかわらず、勉強し続けることが大切だと知った。

・これまで 1 つのことに関してこのように深く調べた経験がなかった僕にとって、この 3 年間の探究活動の経験はとても新鮮で楽しいものであると同時に、将来必要になるであろう多くの能力を身に着けることができるとても有意義な時間であり、とてもいい経験となった。

・1 年、2年は共に行動を起こすのが遅すぎて自分たちのやりたかったことを十分にやりきることができなかった。なので、これからは、「やりたいことがあればまずは行動する」ということを大切にしていく。

・協力していただきたい企業やお店、市役所などにもっと積極的に連絡を取りながら取り組めばよかったと思った。高校生だからという理由で取り合ってもらえないことやできることに限りがあると思うけど、逆に高校生のうちに成功や失敗をたくさん経験しておけば、その経験が自信につながって大学生、社会人になった時の一歩踏み出す勇気につながることがあるかもしれないと思った。

【アンケート結果抜粋】 回答数170名

思う ←→ 思わない

質問項目	5	4	3	2	1
探究活動は、学習意欲の向上につながった	59	36	38	13	4
探究活動は、進路や将来の生き方を考える機会となった	73	56	29	9	3
後輩たちに探究活動を勧めたい	61	74	27	7	1

１０．発表会

探究活動の内容を深めるために、年間を通して発表会を開催した。中間発表会は、テーマについての課題や考えを発表し、講評者から質疑を受けることで取組の見直しや具体的な行動を考える機会となった。様々な活動を進めた後、すべての班がプレゼンテーションをおこなうクラス代表選考会を実施し、最終的には橋本市サカイキャニング産業文化会館「アザレア」にて、創世の翼で取り組んだ探究活動の成果を発表する校内発表会を開催した。発表を行った 10 班は、クラス代表に選ばれた後も入念にブラッシュアップを重ね、自分たちの成果を堂々とプレゼンテーションした。当日は、来賓や保護者の方々にも多くご来場いただき、また報道機関の方々にも取材を受けた。外部評価者の８名の先生方からの講評では、探究活動における重要な視点や改善点を教えていただき、貴重な学びの機会となった。

①中間発表会
日時：９月１３日（金）６～７限
場所：本校（各ＨＲ教室）
目的：創世の翼で取り組んでいる課題研究について、班別プレゼンテーションを行い、有識者からの講評・質疑応答を通じて、新たな視点・観点を生徒間で共有することにより、自らの考えや共通理解を深め今後の探究活動に繋げる。
内容：「ＳＤＧｓ達成のために自分たちができること」発表３分＋講評・質疑応答
講評：木村憲喜（和歌山大学教授）
樋野温己（JICA 青年海外協力隊 OG）
井原淳　（JICA　国際協力推進員）
井筒正文（橋本高等学校前校長）
大谷和　（JICA 国際協力推進員）
大浦俊一（県立高等学校元校長）
鈴木晴久（高野山大学教授）
細田能成（和歌山信愛中・高等学校顧問）
小滝正孝（和歌山信愛女子短期大学教授）
各クラス担任

②クラス代表選考会

日時：１月１７日（金）６～７限
場所：本校（各ＨＲ教室）
目的：創世の翼で取り組んできた課題研究について、クラス内でプレゼンテーションを行い、講評を通じて、新たな視点を生徒間で共有し、探究学習を深化させる。また、クラス代表１班を決定する。
内容：発表６～８分＋講評
　　１年「地域活性のために自分たちができること」
　　２年「ＳＤＧｓ達成のために自分たちができること」
評価：木村憲喜（和歌山大学教授）
　　樋野温己（ＪＩＣＡ青年海外協力隊ＯＧ）
　　井原淳　（ＪＩＣＡ国際協力推進員）
　　井筒正文（橋本高等学校前校長）
　　北浦健司（橋本高等学校元校長）
　　岸田正幸（和歌山信愛大学教授）
　　大浦俊一（県立高等学校元校長）
　　鈴木晴久（高野山大学教授）
　　細田能成（和歌山信愛中･高等学校顧問）
　　小滝正孝（和歌山信愛女子短期大学教授）
　　各クラス担任、学年主任、総副担任、生徒

③校内発表会
日時：２月１３日（水）
場所：橋本市サカイキャニング産業文化会館「アザレア」
目的：総合的な探究の時間で取り組んできた課題研究について、代表班のプレゼンテーションを行い、有識者からの講評を通じて、新たな視点を生徒間で共有し、探究学習を深化させる。
内容：発表９分＋講評・質疑応答
　　１年「地域活性のために自分たちができること」
　　２年「ＳＤＧｓ達成のために自分たちができること」
講評：木村憲喜（和歌山大学教授）
　　樋野温己（ＪＩＣＡ青年海外協力隊ＯＧ）
　　井原淳　（ＪＩＣＡ国際協力推進員）
　　井筒正文（橋本高等学校前校長）
　　北浦健司（橋本高等学校元校長）
　　鈴木晴久（高野山大学教授）
　　細田能成（和歌山信愛中・高等学校顧問）
　　小滝正孝（和歌山信愛女子短期大学教授）

令和６年度　和歌山県立橋本高等学校　校内発表会

令和６年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」に係る校内発表会

日程　　令和７年２月１３日（水）　９：２５～１２：１５

会場　　橋本市サカイキャニング産業文化会館「アザレア」（大ホール）

本日のプログラム

１）開会式

２）発表

		発表タイトル
9:30～	①１年D組７班	無駄のない避難所生活
	②１年C組５班	橋本市の地場産業を知ってもらう
	③１年B組２班	橋本市の企業誘致
	④１年A組６班	地震を身近に考えよう
	⑤１年E組５班	伝統工芸品の知名度を上げるにはどうすれば良いか
		休憩
10:55～	⑥２年D組１班	食品ロス削減のために私たちができること（SDGs12）
	⑦２年A組７班	日本のマナーを外国人へ（SDGs11）
	⑧２年B組４班	子供たちのコミュニケーション能力を高めるために（SDGs4,11 ）
	⑨２年C組９班	来る日の災害に備えて（SDGs11）
	⑩２年E組８班	吸い殻回収２４時 ！！（SDGs11）

３）講評

４）閉会式

生徒たちは、社会の課題を自分事として考え、その解決に向けて半年間、探究活動に取り組んできました。意見を交換しながら、自分たちで見つけた気になる問いに対して課題を設定し、情報を収集・分析し、それをまとめて生徒たちなりの答えをだしています。その成果をご覧ください。

地震を身近に考えよう

１Ａ　６班

このテーマに着目した理由

- 若い世代の防災意識
- 日常的な地域間の関わり

2

<計画していたこと>

①事前の災害復興基金を集める

②ポスターを作成する

③小学生に防災授業をする

3

①事前の災害復興基金を集める

4

災害復興基金とは

被災地域

一刻も早く！

魅力ある地域へ

新潟県ホームページ.「復興基金-新潟ホームページ」. http://www.pref.niigata.g.jp

5

災害復興基金

東日本大震災

3007億円

被害規模（想定）

20倍

南海トラフ

6兆円（想定）

宮入 興一.南海トラフ大地震にどう備えるか. https://doi.org/10.60233/jjsci.56.10_04、2021.10

6

災害復興基金を事前に準備するべき！！

7

問題点が…

- お金の管理の仕方
- 募金活動の期間の短さ
- 集まる金額が少額

etc…

8

9

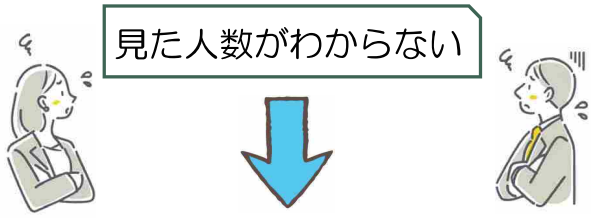
②ポスターを作成する

10

11

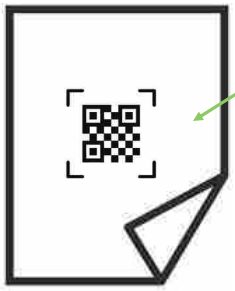
結果

見た人数がわからない



目に見える成果は得られず

12

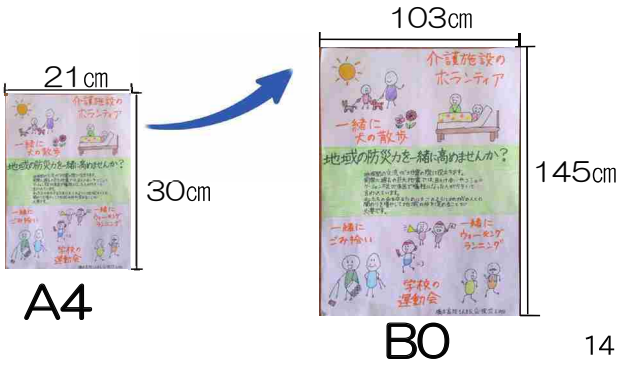


橋本市のイベント一覧

▼

QRコードを読み取った
人数がわかる

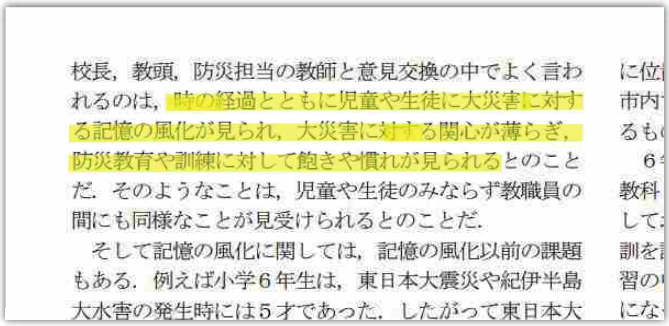
13



14

③小学生に防災授業をする

協力：清水小学校 15



校長，教頭，防災担当の教師と意見交換の中でよく言われるのは，時の経過とともに児童や生徒に大災害に対する記憶の風化が見られ，大災害に対する関心が薄らぎ，防災教育や訓練に対して飽きや慣れが見られるとのことだ．そのようなことは，児童や生徒のみならず教職員の間にも同様なことが見受けられるとのことだ．

そして記憶の風化に関しては，記憶の風化以前の課題もある．例えば小学6年生は，東日本大震災や紀伊半島大水害の発生時には5才であった．したがって東日本大

小学校の防災キャンプで行った 防災教育プログラムの実践
―和歌山県橋本市の事例―

17

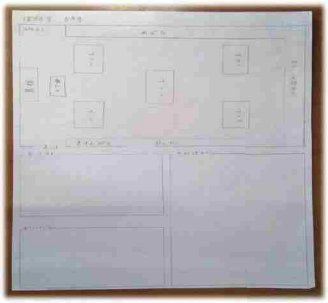
授業内容

手順

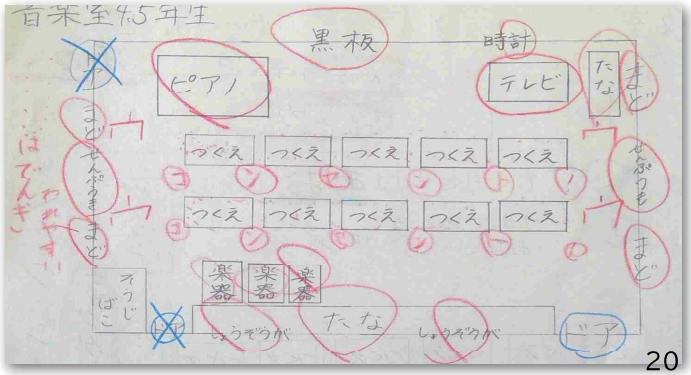
1. 地震がもたらす被害について知ってもらう
2. 教室の危険な所を探してもらう
3. 危険な所を書き出す
4. 避難ルートの危険な箇所を見つける
5. 今回の授業を振り返る

18

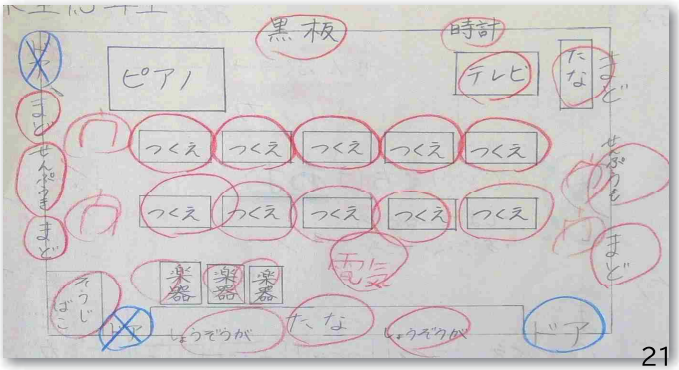
授業の様子



19

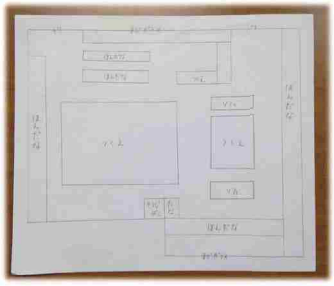


20



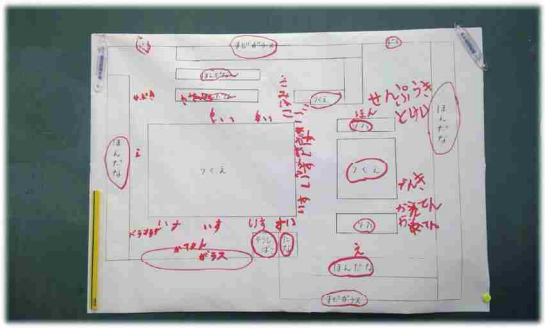
21

授業の様子



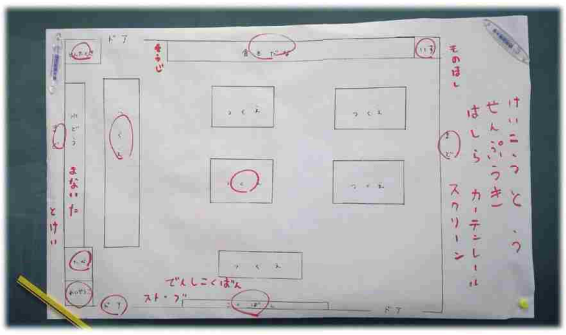
22

(1年生)



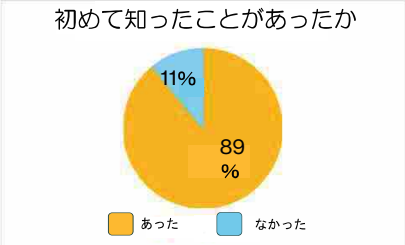
23

(2・3年生)



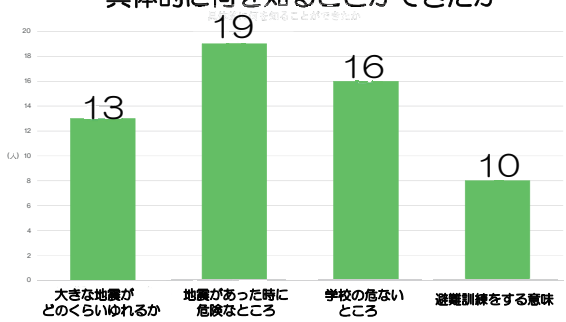
24

アンケート結果



25

具体的に何を知ることができたか



26

小学生の感想

今日の防災学習はとても楽しかった。学校の危ない所は考えていなかったのでとてもよかった。（６年生）

避難訓練は普段は教室からだったからよい経験になった。（４年生）

27

反省点

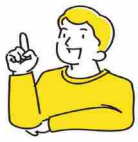
廊下や階段の見取り図も作ればよかった。

もっとにぎやかな授業ができたらよかった。

体が不自由な人の避難方法などが勉強不足だった。

29

防災授業を行って気づいたこと



▶ 小学生は飽きや慣れを感じていない

しかし学年が上がると飽きや慣れを感じる

⇓

中高生が防災授業を！

30

誤った情報を伝えるリスク↗

⚠ 正確な知識と情報が必要

31

誤った情報を伝えないために

- 情報リテラシーを学んで理解する
- 信頼できる情報を集める
- 専門家の意見を聞く

32

無駄のない
避難所生活を送るために

I－D 7班

1

僕たちがこのテーマにしたきっかけは…

2

約一年前の能登半島地震

3

ここでクイズです。
能登半島地震で出たごみの量は次のうちどれでしょう。

① 120万t
② 180万t
③ 240万t

4

正解は③の240万tです。

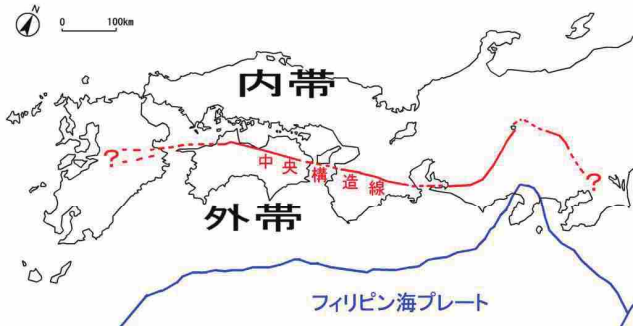
これは地震が起こる前の石川県の
約七年間のゴミの量に相当します

5

災害時の問題点

電気が使えない　水が足りない
衛生環境が悪い
食料が足りない
情報が届かない
避難所生活によるストレス

6



7

この問題をどうしたら
解決できるだろうか……

避難所で出たごみを利用することにしました

9

避難所生活でよく出るごみの中で活用できると考えたもの

10

カイロ

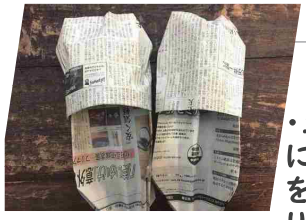
段ボール

新聞紙

ペットボトル

11

新聞紙で作るスリッパ



・土足と上履きの場所を明確に分けることが大切で新聞紙を使って簡単にスリッパを作りはくことができます。

12

カイロを使用した消臭剤・除湿剤

避難所のトイレなど臭いのするところに使い終わったカイロを置いておくと臭いを吸収します

同じように湿度が高いところに置いておくと水分を吸収します

出典：毎日新聞

13

ペットボトルを利用したランタン

懐中電灯の上に水を入れたペットボトルを乗せるだけで使うことができます。

出典：いつもしもwith Kids

14

段ボールから作る椅子

段ボールから 簡易の椅子となります。

15

被災時に全体で共有するためには

そうだ！
パンフレットを作ろう！！！

16

避難所で出たゴミを
避難所生活に役立てよう！

和歌山県立橋本高校一年生

パンフレットの内容

・先ほどの調べたゴミの活用法をまとめて見やすくしてさらに具体的にし、改善したもの。

18

段ボールの活用方法

用意するのは段ボールのみです。

↓表　①段ボールを用意する　裏↓

・切れ込みがあることを確認する。
（切れ込みが入っていなかった場合は、手で裂いてください）

19

②段ボールを裂く

・表の段ボールを上のように裂く　・そして裂いた面を上にして段ボールを立ててください。
（中が空洞の状態）

20

活動報告

・避難所生活で**重要な役割**を担うために必要な知識を蓄えることが出来た。

・家族やクラスメイトにパンフレットを共有し、自分たちの活動報告を伝えた。

21

気づいたこと

・身の回りから出るゴミが災害時に役に立てることがとても学びになった。

・班でこのテーマで活動していくと決めてから、何度も行き詰まる場面があったのでテーマ設定は着地まで考えるべきだと気づいた。

22

今後さらにしたいこと

・今後は市役所などに協力してもらい地域の人々にも災害が起こった時に僕たちの案を活用してもらえたらと思っています。

23

・引用文献

石川県ホームページ　能登半島地震に係る石川県災害廃棄物処理実行計画

https://www.pref.ishikawa.lg.jp/haitai/documents/jikkoukeikaku.pdf

大鹿村中央構造線博物館

大鹿村中央構造線博物館

備える.jp

https://sonaeru.jp/goods/handiwrok/groceries/g-9/

24

外国人は
日本のマナーを知らないのでは？

2

高野山駅の駅員さんへ
インタビュー

切符の買い方

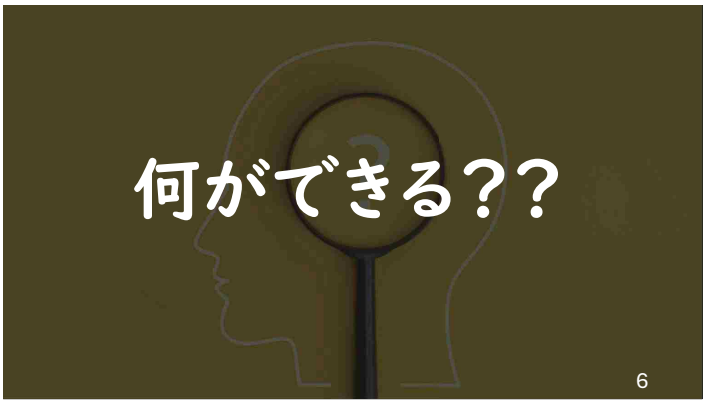
電車の乗り方

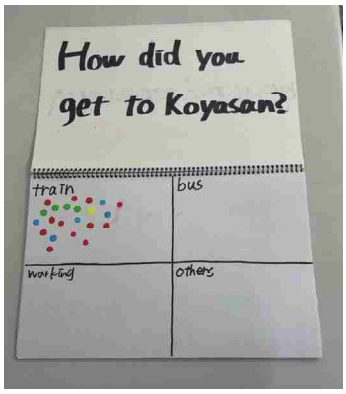
4

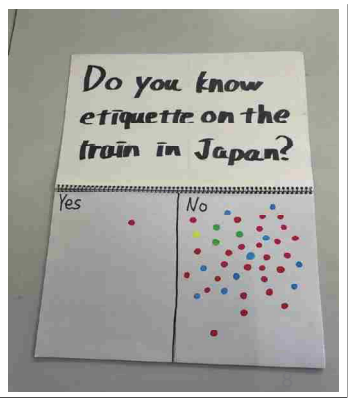
手助けできるようなツールを
作成しよう

不可能

5







高野山までの交通手段は？

≫

全員が電車

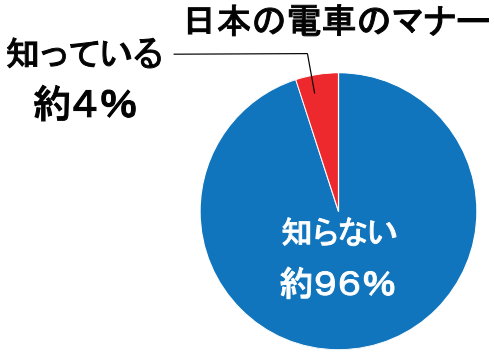
9

焦点を電車に

≫

日本の電車のマナーは
知っているか

10



11

日本の電車のマナーを
知ってもらおう！

12

ポスター

13

英語の質問を母国語に
翻訳するロシア人の方

≫

英語だけではいけない

14

できるだけ多くの言語で対応

日本語・英語・中国語
フランス語・ロシア語

15

16

17

18

自分のごみは自分で持ち帰りましょう
Please take your trash home with you.
请把垃圾带回家
Выбрасывайтесобственный мусор.
Jetez vos propres déchets.

電車の中では静かにしましょう
Please be quiet on the train.
请在火车上保持安静
Пожалуйста, соблюдайте тишину в поезде.
S'il vous plaît, restez silencieux dans le train.

電車ではスマートフォンをマナーモードにしましょう
Please turn your smartphone to silent mode while on the train.
在火车上，将您的智能手机设置为静音模式
Пожалуйста, переведите свой смартфон в беззвучный режим в поезде.
Dans le train, veuillez mettre le smartphone en mode Silencieux.

大きな荷物は、他の人の邪魔にならないように持ち込みましょう
Store luggage in the overhead compartment so that it doesn't disturb others.
带上大行李，以免打扰其他人
Пожалуйста, возьмите с собой большой багаж, чтобы он не мешал другим.
Apportez de gros bagages pour ne pas déranger les autres.

19

私たちは橋本高校２年生です。 学校の授業の一環でSDGｓの１１番「住み続けられる町作り」 の目標に少しでも貢献できることはないか議論し、 実行しています。 現在は、高野山駅でポスターの掲載・外国人観光客向けの 高野山ガイドブックを作成し、実際に配布しています。 日本に訪れた方々の役に少しでも立つことができていたら うれしいです。
We are in our second year at Hashimoto High School. As part of our school classes, we discuss and implement what we can do to contribute to the goal of SDGs No. 11, "Creating a Sustainable Community." Currently, we are posting posters and creating and distributing Koyasan Guidebook for overseas tourists at Koyasan Station. We would be happy if we could be of some help to those who visit Japan.

20

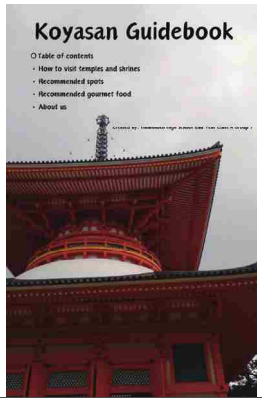
ポスター・ガイドブック
日本語は多い

外国語が少ない

21

ガイドブックを作ろう!!

22



23

24

25

26

27

28

40部

≫

0部!!

29

100%が
役に立った!!!

30

とても分かりやすかった

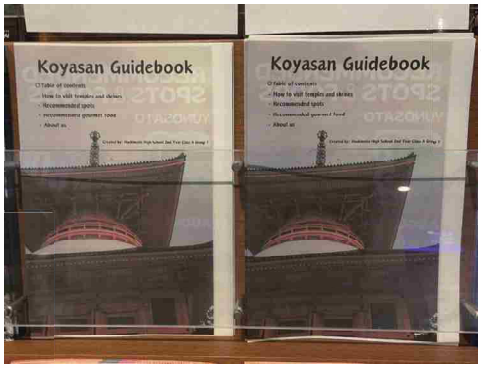
参考になった

素晴らしい

すべて五ヶ国語で
掲載してほしかった

etc...

31



32

高野・山麓いと楽し
～高野山と高野山麓
観光ポータルサイト～

33

掲載OK！！

34

実際の掲載の様子

35

日本の電車のマナーを知ってもらう

36

外国人

日本人

37

38

39

南海電気鉄道株式会社
南海電気鉄道株式会社　高野山・河内管区 高野山駅
南海電気鉄道株式会社　高野山・河内管区 橋本駅
JR西日本　JR和歌山線　橋本駅
和歌山県　伊都振興局　地域づくり課
和歌山県観光公式サイト
https://www.wakayama-kanko.or.jp/features/koyasan
東洋経済オンライン/外国人が驚く！ニッポンの「鉄道作法」１０選
https://toyokeizai.net/articles/-/91367
JAL　ABC/日本の電車文化は独特？海外での電車マナー・ルールを予習しておきましょう
https://www.mobile.jalabc.com/media/information/train-manner
表紙写真
https://www.pakutaso.com/20170424095jr-16.html
SDGs ロゴ写真
https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/sdgs_logo/
グラフ
https://www.mlit.go.jp/kankocho/tokei_hakusyo/shutsunyukokushasu.html

40

子供たちのコミュニケーション能力を高めるために

2B　4班

1

自分たちが着目したSDGs

2

課題の変化

活動開始当初(4月ごろ)の自分たち

教育の現場に行って
探してみる

橋本小学校への
ボランティアの参加

橋本小学校の先生方へ
インタビュー

3

視点の変化

教員側の課題 → 視点の置き換え → 児童・生徒側の課題

■児童・生徒の伸ばしたい力

- ●自主的に挑戦する力
- ●自分の気持ちを大切にする力

4

橋高の先生へのインタビュー

■先生にとって児童、生徒が高めるべき能力とは？

- 自分の気持ちを主張する力
- 他者の意見を受け入れる力
- コミュニケーション能力
- 自分で考える力
- 地域との関わり

5

課題

課題
子供たちのコミュニケーション能力が不足していること

目的

コミュニケーション能力 ← 自分の気持ちを主張する力 / 他者の意見を受け入れる力

6

課題の解決に向けて

何か良いアイデアは
ないだろうか・・・

情報を集めたい！

妙寺公民館館長の
大浦さんにアドバイスしてもらおう！

7

大浦さんのアドバイス

コミュニケーション能力の向上

自分の気持ちを主張する力
他者の意見を受け入れる力
＋
異世代間の交流

8

開催する企画について

子供たちのコミュニケーション能力を向上させる
ためにできることは何だろう・・・

ゲームを通して、
“自分の気持ちを主張する力”＆“他者の意見を受け入れる力”
を高めたい！

9

開催する企画について

Well-Beingトランプを
作成しよう！

10

「Well-being」とは・・・

・直訳すると「幸福」「健康」

・教育におけるWell-beingとは、
「生徒が幸福で充実した人生を送るために必要な能力」

11

Well-beingトランプについて

Well-beingトランプとは・・・
それぞれのカードに質問が
書かれている特殊なトランプ。
質問に答えながら
進めていくゲーム。

12

Well-beingトランプについて

ハート・・・・・・・自己理解を引き出す質問
クローバー・・・想像力を広げる質問
スペード・・・・・二択で選択できる質問
ダイヤ・・・・・・・願望を引き起こす質問

13

Well-beingトランプのメリット

1、自己理解の促進

2，社会性の向上

3，思考力の養成

14

Well-beingトランプの実践

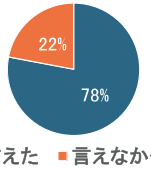
Well-beingトランプを使って神経衰弱をしました！

よいしょ～！

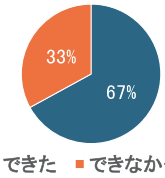
15

結果～反省

自分の意見を言えたか



友達の答えたことをほめる
ことができた



16

結果～反省

■結果から推測できること

“自分の気持ちを主張する力”と
“他者の意見を受け入れる力”が身についた

■反省

カードを有効的に使えなかった

17

Well-beingトランプの応用

Well-beingトランプを使って子供たちに積極的にコミュニケーションを取ってもらうことができた。

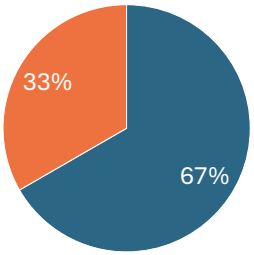
↓

高校生にも活用できるのではないか

18

アンケート結果

■コミュニケーションが困難と感じることがあるか



19

Well-beingトランプの活用

高校生のコミュニケーション能力を高めよう

↓

高校生レベルのゲームも作ってみたい！！

20

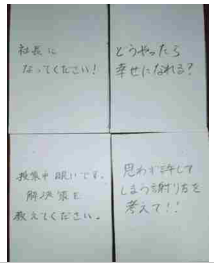
Well-beingトランプの活用

ボキャブレッショントランプを作成しよう！

21

ボキャブレッショントランプについて

質問カード



ワードトランプ

22

ボキャブレッショントランプについて

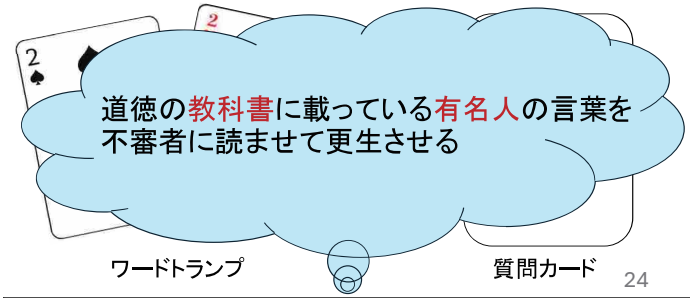
ワードトランプ

不審者が
現れた！
どう対応する？

質問カード

23

ボキャブレッショントランプについて



ワードトランプ　質問カード

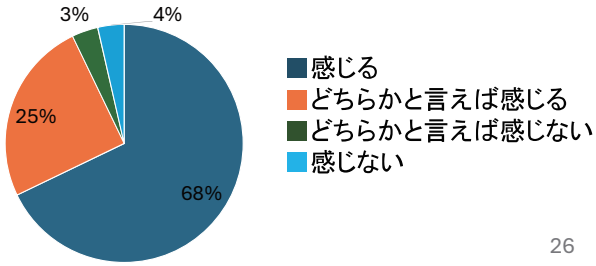
24

クラスでのボキャブレッションントランプの実践

25

結果～反省（グラフ）

■コミュニケーション能力が高まったと感じるか



26

結果～反省

■ゲームがもたらす効果

文章構成力

表現力

語彙力

想像力

27

結果～反省

■よかった点

普段あまり話さない人とも会話ができた

↓

自分とは異なる考えを持つ人との交流が増加

28

結果～反省

■反省

単語どうしの関連がなかった

↓

質問に答えるのが難しかった

29

総探の活動を通して

- 自分のコミュニケーション能力も高まった
- 小学生と高校生で得意な能力が異なる
- 話し合うことの大切さ
- 他の人に意見を求めることの大切さ

30

参考文献・URL

【みんなの教育技術】学習カードゲーム
「Well-Beingトランプ」
https://kyoiku.sho.jp/298553/

キユーピーみらいたまご財団　食を通した居場所づくり支援
サークル「もぐもぐ」
https://www.kmtzaidan.or.jp/partners/24700_mogumogu/

橋本高校2年B組でのアンケート

31

協力してくれた方々

●橋本小学校　3～6年生の担当されている先生方
●橋本高校の先生方
●妙寺公民館　館長　大浦俊一さん
●サークル“もぐもぐ”のみなさん
●橋本市社会福祉協議会
●教育実習で来てくれた　前谷先生
●橋本高校2年B組

32

食品ロス削減のために私たちができること

1

SDGs

持続可能な開発目標

Sustainable Development Goals

2

SDGs 12

つくる責任つかう責任

生産者も消費者も、地球の環境と
人々の健康を守れるよう、
責任ある行動をとろう

3

節分

クリスマス

土用の丑の日

バレンタイン

大規模イベント

『食品ロス問題』

4

食品ロス理解度チェック

Q.日本の年間食品ロス量は?

①約362万トン　②約440万トン　③約523万トン

5

523万トンってどれくらい…?

国民全員が毎日
おにぎりを一つ捨てる量

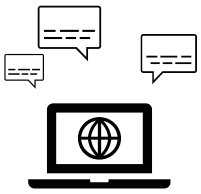
6

活動
ACTIVITY

1. SNSでの情報収集
2. スーパー(事業者)にインタビュー
3. 身近の人(消費者)にインタビュー
4. ボランティアの方にインタビュー

7

1.SNSでの情報収集



- 日本の食品ロスの現状
- 日本が行っている取り組み
- 他国が行っている取り組み
- 食品ロス削減の対策方法

8

2.スーパー(事業者)にインタビュー

おつとめ品コーナーはあるか
値引きの効果
廃棄商品の対応
入荷数の決め方
商品の配置について

スーパーセンターオークワ
松源（橋本店）

9

------おつとめ品コーナーはあるか------

オークワ - なし
松源 - 野菜のみ

------入荷数の決め方------

オークワ - AIを活用
松源 - 本社が決定

10

3.身近の人(消費者)にインタビュー

---消費者の食品ロス削減に対する意識は??---
橋本高校の先生方13人にアンケートを実施

ネットの情報 < 実際の声

11

質問内容	結果
買い物に行く前冷蔵庫の中身を確認するか	11人
お店の商品棚の手前から商品を取るか	5人
必要な分だけ買うか（まとめ買いを避ける）	9人
訳あり商品を購入するか	7人
残った料理をリメイクするか	13人
残っている食材から使うか	11人

12

質問内容	結果
買い物に行く前冷蔵庫の中身を確認するか	11人
お店の商品棚の手前から商品を取るか	5人
必要な分だけ買うか（まとめ買いを避ける）	9人
訳あり商品を購入するか	7人
残った料理をリメイクするか	13人
残っている食材から使うか	11人

13

3.ボランティアの方にインタビュー

フードドライブ

・提供の方法　・問題点
・一回の活動で集まる食料品の量
・食料の集め方
・PRの仕方

橋本市社会福祉協議会

14

分かったこと

寄付は個人、団体など、善意であれば誰でも可能

米は2トン程、缶詰・お菓子も大量

先着110世帯が対象で、1時間足らずで集まる

広報誌やホームページなどでのPR活動

15

分かったこと

寄付は個人、団体など、善意であれば誰でも可能

米は2トン程、缶詰・お菓子も大量

先着110世帯が対象で、1時間足らずで集まる

広報誌やホームページなどでのPR活動

16

1.ラジオでの発信

2.クイズサイトの作成・発信

3.ポスターの作成

4.HPの作成

広報
PUBLIC RETASIONS

17

ラジオでの発信

12月23日　7:00～7:45 放送

放送部員の協力で、一部コーナーにて
「食品ロス」に関する企画をやってもらいました

18

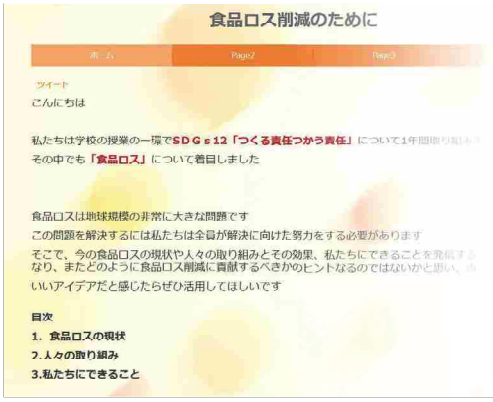
クイズサイトの作成・発信

➡クラスへ発信

19

ポスター

20



ホームページ

➡クラスへ発信

21

ネットで調べる　行動して調べる　広報する

22

参考文献・協力してくださった方

農林水産省https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/161227_4.html（2024年８月閲覧）
スーパーセンターオークワ　橋本店
マツゲン　橋本店
橋本市社会福祉協議会
橋本高校放送部　［FMはしもと］
橋本高校先生方　１３名
2Dの生徒
Quiz Generator　クイズ・テスト作成フォーム
https://lms.learningbox.online/index.php?action=createQuiz&__hstc=175080445.3ec389d772f077b5615c5b4948f71cc1.1732172732624.1732172732624.1732172732624.1&__hssc=175080445.3.1732172732625&__hsfp=1635873583&_gl=1*1b636qq*_gcl_au*MTYzNDQ2NjM3Ny4xNzMyMTcyNzIy*_ga*MTMwNDkyNzYyMi4xNzMyMTcyNzI2*_ga_5Y7FCPPZ9L*MTczMjE3MjcyNi4xLjEuMTczMjE3Mjc5NS42MC4wLjA.&_ga=2.243276229.1576941618.1732172728-1304927622.1732172726
Wepage
https://wepage.com/?utm_source=google&utm_medium=cpc&utm_campaign=brand&utm_term=wepage&gad_source=1&gclid=EAIaIQobChMIps2X6NT6igMVks0WBR3IPRvLEAAYAiAAEgICOPD_BwE

23

１１．高野山世界遺産研修

Ｒ６年度より開設した学校設定科目「世紀の空」の学習の一環として、本校１年生を対象として実施。地域の世界遺産である高野山を題材として歴史や文化について学び、現地研修を通じて生徒一人一人が自分の目で確かめる。「観光」をテーマとした学びにおいて、なぜこの地域が世界遺産に登録されたのか、世界遺産の価値や魅力を多くの人に知ってもらうためには何が必要かについて考察する。「世界遺産」という題材について、複数の教科がそれぞれの視点からその内容を扱うことで、生徒がより広く深く考察する手がかりとなった。

【実施概要】

①世界遺産学習について概要説明
日時：８月２７日（火）７限
場所：本校（体育館）
目的：２学期に行う世界遺産学習について、一連の流れを把握する。また、学習の目的は世界遺産高野山の文化・歴史への学びを深め、地域にある世界遺産の価値や魅力への理解であることを確認する。
内容：１学期の学びを振り返り、世界遺産学習の目的や学習内容を知る。冊子「世界遺産高野山」を用いて学習する。

②世界遺産事前学習
Ⅰ　世界遺産講演
日時：９月２４日（火）６～７限
場所：本校（体育館）
目的：事前に世界遺産高野山への訪問先や学ぶ目的を考え、今後の探究活動に役立てる。
内容：講演　高野山大学山口文章氏「天空の聖地　高野山　世界遺産たる所以」
Ⅱ　各教科からの学習
日時：１０月１５日（火）～１１月１２日（火）
場所：本校（各ＨＲ教室）
目的：「世界遺産」を１つのテーマとして、さまざまな視点を持つ。
内容：各教科の授業の中で、高野山の歴史・文化・自然についての内容を扱う。

③世界遺産訪問
日時：１１月２８日（火）
場所：高野町
目的：世界遺産高野山の文化・歴史への学びを深め、地域にある世界遺産の価値や魅力について理解することで、探究活動に役立てる。
内容：精進料理、奥の院（観光ガイド）、市内散策（壇上伽藍・金剛峯寺・霊宝館など）
冊子「世界遺産高野山」を用いて学習内容をまとめる。
持ち物：学習冊子、筆記用具、写真撮影できる機器（一人一台パソコンなど）

④世界遺産事後学習
日時：１２月１０日（火）
場所：本校（各ＨＲ教室）
目的：訪問学習を通して学んだことを振り返り、まとめることで、世界遺産高野山の学びを深め、今後の探究活動に役立てる。
内容：①冊子「世界遺産高野山」を用いて学習内容をまとめる
②写真を用いて、自分独自の高野山の魅力を人に伝える文章を作成する。

【教科学習】

今年度は４教科の協力を得て、校外研修前に各教科１時間の授業を行った。

① 【歴史総合】
世界遺産を知ることは、その国・地域の文化や歴史、風土を知ることにつながる。まずは、「世界遺産」とは何なのか、そして、「紀伊山地の霊場と参詣道」について考察する。

② 【論理表現Ⅰ】
高野山校外学習において、自分が紹介したいと思う物の写真を撮り、その写真について英語で１～２分程度説明する。その際、パンフレットに載っているような内容ではなく、自分の視点で興味を持った事柄や、高野山について全く知識のない海外からの留学生の関心をひくような内容になるように工夫する。論理表現の授業内で、クラスに向けて発表。３学期のパフォーマンステストとして評価に含める。

③ 【保健】
精進料理とは何か。食と健康との関わりについて学習する。

④ 【理科】
世界遺産の保護について、その方法と今後の展望を考える。

【世界遺産講演】

９月２４日（火）に世界遺産講演会として『天空の聖地　高野山　世界遺産たる所以』を本校の体育館で行った。高野山大学より、山口文章先生をお招きし、高野山についての講義を聞く。講義内容をもとに、校外研修当日にどのような点について調べるのか、各自で事前に考える機会とする。

【事前・事後学習】

事前学習については、本校の体育館において学年全体で行った。
内容としては、高野山学習の目的と内容を周知するとともに、高野山校外学習の日程を確認した後、高野山内自由散策の予定等各自の行動計画をたてた。
事後学習については、各自で高野山学習冊子による振り返りを家庭課題として行った。ただし、英語科のプレゼンテーション課題については、１時間設定し、生徒同士で確認しながら作成することで、世界遺産について伝える意識を持たせる機会とした。

【世界遺産実地研修】

１１月２８日（火）高野山校外学習を実施した。参加者は、１年生、教員１２名。
１年生５クラス１９６名を２班に分け、午前中は壇上伽藍見学、精進料理体験、奥の院散策（ガイド付き）を実施、午後は「創世の翼」（総合的な探究の時間）のグループに分かれ、高野町内を自由散策する時間とした。自由散策においては、２つの課題を設定した。まず１つ目が、金剛峯寺または霊宝館の見学を行うこと、２つ目が町内で働く人、また国内外からの旅行者にインタビューすることである。これまでも高野山を訪れた経験のある生徒が多かったが、高校生ならではの視点でメモやインタビューする姿が見られ、充実した研修となった。

【世界遺産研修に関連した活動】

◎和歌山大学との交流授業
１月２３日（火）に和歌山大学において、留学生との交流授業を実施した。参加者は論理表現Ｉのクラスより生徒２０名、教員３名。
和歌山大学日本語日本文化講座を受講している、ベトナム、インドネシア、ベラルーシ、ラオス、タイからの留学生７名と、本校１年生２０名で交流授業を実施。高野山校外学習の内容について写真とともに英語で紹介し、その内容について留学生の感想や意見を聞くと同時に、留学生の出身国について学んだ。昨年度も同じ取組を行ったが、できるだけ英語でコミュニケーションを取ろうとする生徒が多く見られ、他国への興味関心の幅を広げるだけでなく、語学力を鍛える機会ともなった。

１２．ＳＤＧｓについて（企業研修・大学出前講座）

①ＳＤＧｓ企業研修

「タオル製造」を通してＳＤＧｓに積極的に取り組む企業を訪問した。「生態系と共生する」という企業活動の考え方や取組を聞き、ＳＤＧｓへの理解を深めるとともに、幅広い視野を持ち活躍する企業家の姿に探究活動への意欲を高めた。

【実地概要】

日時：７月１１日（木）１６日（火）１７日（水）
場所：株式会社　スマイリーアース
目的：ＳＤＧｓに積極的に取り組む企業を視察することで、企業活動の考え方や取組について理解を深め、探究活動に役立てる。
内容：工場見学、ＳＤＧｓに積極的に取り組む意義と実践内容を聞く。

①ＳＤＧｓ大学出前講座

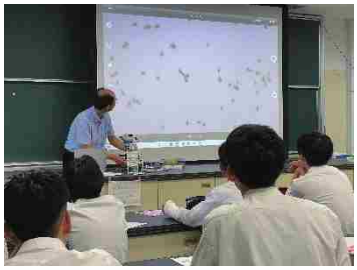
「創世の翼」(総合的な探究の時間)の課題研究において、SDGsの課題について考察するとともに新たな視点･価値観を発見する機会とし、協働的･主体的に取り組む態度を培った。

【実施概要】

日時：８月２６日（月）２７日（火）
場所：本校（各ＨＲ教室・会議室・物理教室・生物教室）
目的：高等教育機関との連携により、生徒の今後の探究活動につなげる。実際に大学教員からの大学の取組や講義を経験することにより、探究活動および進路の両面において、広い視野の獲得に繋げる。
内容：ＳＤＧｓについての講演、ワークショップ

【研修内容】

クラス	月日	講師	テーマ	講義内容
２E	8/26	大阪教育大学 教員養成課程理科 教育講座准教授 種田　将嗣	化学の眼で見る ＳＤＧｓ	専門は有機化学で、光をあてることで色が変わる分子や、有機ＥＬ材料の合成開発を行ってきた。近年はＩＣＴ教材の開発を行い、オンデマンド化学実験の教材などを作成。ＳＤＧｓは化学の観点からどう考えることができるのかを取り上げる。
２A ２B ２C ２D	8/27	和歌山大学 教育学部　教授 岡崎　裕	教育の中に組み入れるＳＤＧｓ	・ＳＤＧｓを知っていますか？ ・教育システムにＳＤＧｓの考え方 ・学問は将来の自分のために
		東洋大学 福祉社会デザイン学部 教授 菅原　麻衣子	世界のまちのバリアフリー	日本の展示ブロックといえば黄色であることがほとんどだが、他の国々に行くと黒や白や赤など、形やデザインも異なるものが見られる。それはどうして違うのか、点字ブロックに加えて、海外のトイレ、段差解消機バスなどのデザインを紹介しながら、生徒と一緒に「なぜ違う？」を紐解いていく。そして、誰もが暮らしやすい社会環境とするために、日本が他の国から学ぶべきこと、日本が他の国に伝えること、他の国と一緒に取り組めることを考える。
		近畿大学 生物理工学部 准教授 梶川 昌孝	藻が作り出すバイオ燃料	化石燃料は有限の資源であり、それに代替する資源の探求は社会的なニーズである。藻類には多くの油を蓄積する種類があり、藻類油を石油やガソリンの代わりに利用しようという試みが注目されている。なぜ藻類は油を貯めるのか、最新の研究成果からわかってきた理由を説明する。また藻類とはどのような生き物か、藻類の作り出す油は食用になる植物油とは違うのかを解説する。
		近畿大学 食品安全工学科 教授 石丸　恵	果実のおいしい話 ～果実が柔らかくなる仕組み～	多種多様な食品の存在する現代において、果実の生産量と消費量は年々減少している。それでも毎年新しい品種が育成され、おいしい果実がたくさんできている。「おいしさ」の感じ方は人それぞれだが、多くの果実では柔らかいと「おいしく」感じるようである。果実が成熟するときに、やわらかくなる仕組みをわかりやすく紹介する。



１３．他校（小学校・他府県）・海外（オンライン・留学生）交流

【他校との交流】

①和歌山県橋本市立橋本小学校

日時：７月２６日（金）９：３０～１１：３０
場所：橋本市立橋本小学校
目的：小学生が喜ぶ企画を自発的に考え、運営することにより思考力や判断力、および責任感を持つことを経験する。また、異年齢の他者とのコミュニケーションを図ることにより、視野や価値観を広げる。
内容：橋本小学校にて実施されたイベント「夏に挑戦」にボランティアとして生徒が参加する。生徒は「小学生に喜んでもらえるイベントの企画」を目標に一から企画・準備・運営をおこなう。

②北海道釧路湖陵高等学校（オンライン交流）
日時：３月１２日（水）２限～３限
場所：本校（各ＨＲ教室）
目的：他校との交流を通して、多様な観点・視点・地域課題があることに気づき、次年度の探究活動に繋げる。
内容：各クラスで釧路湖陵高校の探究活動発表を聞き、質疑応答する。その後、グループに分かれ、本校の探究活動について発表した後、質疑応答を行う。

【海外との交流】

①大阪観光大学留学生交流

日時：９月１７日（火）６限７限　１８日（水）４限
場所：本校（各ＨＲ教室）
目的：大阪観光大学で観光学を学ぶ留学生との交流を通じて、自国の文化と他国の文化の違いについて気づき、視野を広げるとともに、自分たちとは違う立場や環境にある人々に対して自分の考えを伝え、他者の価値観に触れることで、自分の考えを深める。
内容：１クラスについて、４名の留学生（韓国・中国・ベトナム・スリランカ・ネパール・インドネシア・モンゴル)と交流。生徒が①日本の訪れてほしい場所　②留学生の出身国に行った際、訪れたい場所について調べたものを発表する。それによって、留学生から見た日本の魅力や、留学生の出身国についての情報や魅力を聞く手がかりとする。

②フィンランド　バーサリオン高校との交流

日時：１０月２日（水）～８日（金）

目的：Ｒ５年度よりオンライン交流を行っている海外高校生との対面での文化交流等を通して、海外や異文化に対する理解を深める。

内容：世界遺産研修（京都・奈良・高野山）・授業交流

フィンランド交流スケジュール				備　　考
日時		場所		
10月2日(水)	12:35	関西空港着		バス
	14:00	関西空港発		
	15:00	橋本市着		
10月3日(木)	8:00	大阪	大阪城・四天王寺・通天閣・なんば	電車
10月4日(金)	8:20	真田ミュージアム		
	10:50	橋本高校	バーサリヨン高校到着	
	11:00	体育館	歓迎セレモニー 歓迎の挨拶（校長・生徒代表） バーサリヨン高校挨拶	全校生徒 バーサリヨン高校 （生徒20名、引率2名）
	11:10	生徒ホール	昼食交流	３年希望者
	14:00頃	作法室	日本文化体験（浴衣着付け）	橋本市国際親善協会・希望者
	16:00頃		ホテルへ	
10月5日(土)	8:00 18:00	奈良 ホテル着	興福寺・春日大社・東大寺・奈良公園	橋高生16名
10月6日(日)	8:00 18:00	京都	龍安寺・金閣寺・嵐山（竹林） ホテル着	橋高生15名
10月7日(月)	8:00 16:00	高野山 ホテル着	奥の院・金剛峯寺・壇上伽藍・根本大塔	橋高生13名
10月8日(火)	8:35	橋本高校に登校	バーサリヨン高校到着	
	8:40	SHR	ＳＨＲ（1年2年各クラスに2名）	
	8:55	１限～４限	授業	
	9:50	2限	授業	
	10:45	3限	授業	
	11:40	4限	授業	
	12:25	昼食	昼食（各ＨＲクラスで）	
	13:05	5限	授業	
	14:00	６限	さよならセレモニー 邦楽部演奏 校長・生徒会挨拶 バーサリヨン高校紹介 記念品交換	
	14:50	橋本高校出発	見送り	
	18:00	ホテル出発	関西空港へ	バス
	19:00	関西空港着		
	22:25	関西空港発		

③和歌山大学との交流授業
日時：１月２１日（火）５限～７限
場所：和歌山大学
目的：留学生との交流を通して、世界遺産についての認識や互いの文化への理解を深めるとともに、グローバルな視点や考え方を培い、自らの考えを発信する力を身につける。
内容：「世紀の空」で取り組んでいる世界遺産学習の一環として実施した高野山実地研修において体験した内容を留学生に英語でプレゼンテーションする。意見交換を通じて、世界遺産への認識や異文化理解を深める。参加者は論理表現Ｉのクラスより生徒２０名、教員３名。交流授業は、和歌山大学日本語日本文化講座を受講している、ベトナム、インドネシア、ベラルーシ、ラオス、タイからの留学生７名と、本校１年生で実施された。本校生徒が高野山について写真とともに英語で紹介し、その内容について留学生の感想や意見を聞くとともに、各留学生の出身国について学び、他国に対する興味関心の幅を広げた。

④海外高校生との交流
日時：フィンランド４月１８日（木）５月１０日（金）１１月８日（金）
　　中国　１０月１７日（木）
　　マレーシア　１０月１８日（金）
　　オーストラリア　１１月２８日（金）
　　台湾　１２月１３日（金）
場所：本校　（各ＨＲ教室・選択Ⅱ教室・生物教室・会議室）
目的：海外高校生との文化交流等を通して、海外や異文化に対する理解を深める。
内容：自己紹介、学校紹介、文化交流

１４．その他

【外部への紹介】

フィンランドの生徒と交流

橋本高生 オンラインで

フィンランドの高校生とオンラインで交流する橋本高校の生徒たち ＝橋本市で

橋本

橋本市古佐田4の県立橋本高校3年生36人が10日、フィンランド西部バーサ市のバーサリヨン高校の生徒とオンラインで交流した。両校とも国連教育科学文化機関（ユネスコ）に「ユネスコスクール」と認定されたのが縁で、ビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」を通し、学校紹介や取り組みなどを英語でやりとりした。

橋本高側では1クラスの生徒が4班に分かれて実施。フリップで自己紹介し、三岡伊玖さんは「すしとか自分の好きなものが相手に伝わった」と喜んだ。さらに、SDGs（持続可能な開発目標）に関連した取り組みを紹介し、橋詰青空さんは橋本駅にごみ箱やベンチを増やす活動を発表した。一方、バーサリヨン高校の生徒たちは、ダンスパーティーなどの学校行事やSDGsに関係した取り組みを紹介。松本桜さんは「行事の規模が大きい。ダンスパーティーとか楽しそう」と話し、丸沢汐季さんは「ペットボトルを中身に関係なく統一し、瓶を増やしている」と、リサイクルが進んでいる状況に感心した様子だった。

バーサリヨン高の生徒約20人らの一行が10月に1週間、橋本市に滞在する予定。吉田直樹さんは「一緒に学校生活を楽しみたい」と期待した。橋本高は海外とのオンライン交流に力を入れており、今年1月以降、マレーシアや台湾の学校とオンラインで交流し、バーサリヨン高校とも別の1クラスや希望者でオンライン交流を実施している。【藤原弘】

毎日新聞 2024 年 5 月 17 日

和菓子作りで生徒ら交流

橋本高 フィンランドの高校生来日

みたらしだんご作りに挑戦するバーサリヨン高や橋本高の生徒たち ＝橋本市古佐田4の県立橋本高で

橋本

フィンランド西部のバーサ市にあるバーサリヨン高校の生徒20人らが10月8日、橋本市の県立橋本高校を訪れ、同高や併設の県立古佐田丘中学校の授業を体験して交流した。

バーサリヨン高の生徒の一部はこの日、橋本高2年生の家庭基礎の授業に参加。2種類の米粉を混ぜ合わせて丸め、みたらしだんご作りに挑戦した。みたらしだんごを味わったバーサリヨン高3年のハンナ・アランコさん（18）は「日本の伝統的なお菓子を作れて良かった。とてもおいしかった」と喜んだ。このほか、数学や化学などの授業に参加した。

両高は共に国連教育科学文化機関（ユネスコ）の「ユネスコスクール」に認定されているのが縁で交流が始まり、オンラインでのやりとりなどを行ってきた。今回バーサリヨン高の生徒たちは10月2日から8日までの日程で来日し、高野山（高野町）や奈良、京都の寺院見学などをした。3年生の外山鈴さん（18）は「一緒に昼食を食べて互いの味覚の違いを知ることができた」と話し、丸沢汐季さん（17）は「自分と違う他の国籍の人たちと一緒に学んでみたい」と将来の希望を話していた。【藤原弘】

毎日新聞 2024 年 11 月 1 日

食品表示で外国人サポート

英語、イラストでわかりやすく

「イスラム教で禁止されている豚肉の入ったサンドイッチを食べてしまった」「間違った物を買ってしまった」。日本で暮らす外国人のそんな声に応え、県立橋本高校の生徒3人が、英語やイラストで食品を説明する表示を考案した。橋本市内のコンビニエンスストアに取り付けたところ好評で、「SDGs探究AWARDS2023」（一般社団法人未来教育推進機構主催）で入賞を果たした。【藤原弘】

外国人用の食品表示を考案した（左から）今屋日和さん、福井美佑さん、乾日菜代さん―いずれも橋本市古佐田2のファミリーマート橋本古佐田店で

橋本高生3人が考案「SDGs探究AWARDS」入賞

3人は、乾日菜代さん、今屋日和さん、福井美佑さん。2年生だった昨年秋、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて取り組みを提言する「総合的な探究の時間」の一環で活動を始めた。手始めに同校のALT（外国語指導助手）のアメリカ人女性に困っていることを尋ねたところ、予想していた駅などの表示ではなく、買い物という回答だった。

そこで、市内の専門学校に通うフィリピンやネパールなどの外国人に買い物で困ったことをアンケート調査。30人以上から回答が得られ、宗教で禁じられている食材を調べて食べたことや、買い物に時間がかかっているケースなど具体例が浮かび上がった。外国人の姿を多く見かける橋本駅近くの「ファミリーマート橋本古佐田」（南雲信一店長）に協力してもらい、昨年11月からイラストや英語で食品を説明する表示を取り付けた。

例えばハムカツサンドの場合、「Ham cutlet」と英語で表記し、含まれている食材を示すためブタの絵を描いた。他には、おにぎりや鶏のイラストを付けた鶏肉の揚げ物など約100種類。今屋さんは「英語が分からない人もいたので、イラストを付けた」と説明し、福井さんは「普通の高校生でも困っている人をサポートできることが分かった」と話す。

イラスト付きの表示

南雲店長は「高校生の発想は面白い。外国人から肉が入っているのかと尋ねられたが、今は表示で分かるから、外国人がよく買ってくれるようになった」と効果を実感している。

今年2月ごろには外国人観光客が多い高野山（高野町）にも活動を広げ、食料品や土産物を販売する「勝間屋」（川俣大輝さん経営）で食品表示のポップも考案。棒状の「天空般若」などピールの「高野棒麩」など5種類に表示されている。川俣さんは「食べ方が分からずに外国人が棒麩をかじって食べたという話も聞いたことがある。高校生が楽らかいイメージで商品の内容や食べ方を表現しており、外国人が商品を手に取って見てくれている」と話す。

SDGs探究AWARDS2023には、全国から約750件の応募があり、3人の取り組みは最優秀賞や優秀賞、審査員特別賞に次ぐ協賛団体賞に選ばれた。乾さんは「壮大なテーマの地球温暖化などではなく、自分たちができることに取り組んだのが良かった」と喜んだ。

毎日新聞
2024年5月29日

英文毎日（2024.5.30）にも

取り上げられました！

Japan high schoolers create illustrated English food labels to help foreign residents

May 30, 2024 (Mainichi Japan)　Japanese version

From left, Hiyori Imaya, Miyu Fukui and Hinayo Inui are seen at a FamilyMart convenience store near Hashimoto Station, in Hashimoto, Wakayama Prefecture. (Mainichi/Hiroshi Fujiwara)

HASHIMOTO, Wakayama -- Three students here have developed illustrated English food labels to help foreign residents avoid meal-time mishaps, like Muslims eating items containing pork, or anyone not fluent in Japanese simply buying entirely the wrong thing.

The labels have been well-received at a convenience store in Hashimoto, Wakayama Prefecture, and won the trio an award from Umedai, a general incorporated association promoting future-oriented education.

A scrambled egg sandwich with one of the students' illustrated English labels is seen at a FamilyMart convenience store near Hashimoto Station, in Hashimoto, Wakayama Prefecture. (Mainichi/Hiroshi Fujiwara)

The three students at Wakayama Prefectural Hashimoto High School, Hinayo Inui, Hiyori Imaya and Miyu Fukui, started the project in the fall of their second year as part of "integrated exploration time," a program aimed at contributing to the United Nations Sustainable Development Goals (SDGs). They initially asked their school's American assistant language teacher (ALT) about the language challenges she faced, and were surprised to learn that shopping beat public signage at train stations and elsewhere as her most significant issue.

Surveying foreigners from countries like the Philippines and Nepal who attended a local vocational school, the students collected responses from over 30 people. The answers highlighted problems such as accidentally consuming religiously prohibited foods and spending excessive time shopping. With the cooperation of a local FamilyMart convenience store with many foreign customers near Hashimoto Station, they began posting labels with illustrations and English descriptions in front of products in November 2023.

和歌山県立橋本高等学校